

項目10:療育・教育 ○:良かった事 ヒントNO①:就学前、早期発見、療育、通園 の (1/2)

N O	年 齢	男 女	手 帳 ①	分 類	項 目	ヒ ン ト NO	○ ●	コメント ヒントNO①:就学前、早期発見、療育、通園 の (1/2)
1	5	F	B2	12	10	1	○	早い時期に療育手帳が取得できたので、療育が受けられた
2	7	M	A2	23	10	1	○	アグネス園はすばらしいと思った。ひよこ園とは質が違う
3	8	M	B2	22	10	1	○	小学校入学式の数日前に、学校から電話があり「入学式当日の行動を知っていた
4	8	F	B1	22	10	1	○	通園の早期療育のおかげで集団生活になじみ、幼稚園に通えた。
5	8	M	0	20	10	1	○	早期発見したことにより、就学前から対応することができ、心構えができた
6	8	F	A2	23	10	1	○	親の自覚のないうちから、流れで療育を受けられる状態になっていた。
7	9	男	B2	21	10	1	○	1歳6ヶ月の検診での面談から療育を受けることができた
8	9	M	0	22	10	1	○	入園前に療育を受けたので、幼稚園側に様々な配慮の必要性を理解してもらった。
9	9	M	0	22	10	1	○	母親同士の交流の場のお陰で孤独感がなくなり前向きに療育に臨めた。
10	9	M	精 2	21	10	1	○	2歳の頃、支援学校の相談にて異常がわかり(グレー)、その後前向きに育てることができた。
11	10	男	A2	23	10	1	○	太陽の家での先生の関わりは私も勉強になりました。
12	11	F	B1	22	10	1	○	陽光園に通って良かった。祖母が「表情が豊かになった」と言ってくれた。
13	11	男	A1	23	10	1	○	就学前の療育施設に通えたので良かったと思う。
14	12	M	B2	22	10	1	○	接し方を手本を見せて細やかに教えてくれた。
15	12	M	B2	22	10	1	○	幼稚園が総合保育で理解があり、親子ともに安心して生活できた。
16	12	F	A2	23	10	1	○	診断を受けてすぐ療育を受けられたこと。とにかく何とかしなければという思いが強かったので、何も受け皿がなかったら、途方にふけていたと思う。療育機関で同じような子を持つお母さんたちと出会えたことも良かった。
17	12	M	B2 精	22	10	1	○	幼稚園の担任が療育先に学びに来てくれた
18	12	F	B3	21	10	1	○	三歳半健診～親子教室～ひよこ園～病院・療育センターと順調に療育を受ける機会があり、現在まで二次障害も無く過ごしている。幼稚園園長・担任の対応がよかった
19	13	M	B2	22	10	1	○	(療育の場面で)グループ療育の場で同じ遊びをする場合にも、個々にあった支援が用意されていて、皆で参加して楽しむことができた。個別療育のときにも、本人が分かる手順書(文字や写真、絵つき)が用意され、分かりやすくなっていて助かる。
20	13	M	A1	23	10	1	○	アグネス園の3年間で先生の対応も良く成長した
21	14	M	A1	23	10	1	○	1歳半検診で障害の早期発見できた
22	14	M	A2	23	10	1	○	早期発見し、就学前の四年間をあけぼの園の療育を受けられたことが、とても有効だった。
23	14	F	0	21	10	1	○	早期発見により、様々な療育、指導を受けることができた
24	15	M	B1	35	10	1	○	早期発見できたことにより、親が正しい知識を学ぶ機会が増え、相談機関とのつながりもできた
25	15	M	B1	22	10	1	○	初めて相談に行った療育施設で、親の気持ちに配慮しつつも、障がいは治らないこと、早期療育の必要性を説明してもらった。
26	15	M	B1	35	10	1	○	比較的早期発見でき、療育や学校等子どもにかかわってくださる方々が、自閉症への理解のある方々だったので、本人としては生活がしやすい環境だったのでは…と思う
27	15	M	0	22	10	1	○	自閉症についてとても詳しく、理解ある幼稚園に出会い、幼児期に育てるべき大切なことをたくさん育ててもらえた。
28	17	M	A2	35	10	1	○	陽光園に通って、母子ともに色々な経験を積めた。

29	17	M	A2	35	10	1	○	市の保健師さんに相談したら、通園施設を紹介してくれた。
30	17	M	A2	23	10	1	○	就学前の早期発見で療育や個別教育計画ができたこと、良い先生や支援者に巡り会い学校行事や課外活動にも楽しく有意義に参加できたこと

項目10:療育・教育 ○:良かった事 ヒントNO①:就学前、早期発見、療育、通園 の(2/2)

N O	年 齢	男 女	手 帳 ①	分 類	項 目	ヒ ント NO	○ ●	コメント ヒントNO①:就学前、早期発見、療育、通園 の(2/2)
31	18	F	A1	51	10	1	○	横浜市南部療育センターで自閉症、構造化の勉強をさせてもらった。
32	18	F	B1		10	1	○	障害を理由に園長から保育園入園を断られたが、主任保育士が全職員での支援体制を整えてくれ、入園できるようになった。
33	19	M	B2	51	10	1	○	幼稚園の担任が相談に乗ってくれ特別な連絡ノートを作ってくれたり、県の教育センターを紹介してくれたり、熱心に関わってくれた。
34	19	M	B2	51	10	1	○	教育センターの担当が子育ての具体的な指示を出してくれ安心した。また、幼稚園にも出向いてくれ、支援の仕方について園側にも指導してくれた。
35	19	F	A1	51	10	1	○	プールは好きだが、皆と一緒に入るとザワザワしたのが嫌で、プールを楽しめないのを先生が気づいて、一人先にいれてくれ、その後他の子を入れたら大丈夫で、皆とプールを楽しめた。
36	19	男	B2	51	10	1	○	民間の療育機関を紹介してもらえた
37	19	男	A2	51	10	1	○	地域の私立幼稚園では、加配で専任先生が付いた。
38	19	男	A2	51	10	1	○	園全体で、環境や本人の状態を配慮、家族との連携をとってくれた。
39	19	男	A2	51	10	1	○	本人に無理をさせず、バランスをとって過ごせた。
40	19	男	A2	51	10	1	○	民間の療育機関で障害告知され、自閉症の子育てに向き合えた。
41	19	F	A1	51	10	1	○	あるお母さんから一冊の本を借りた。その本を読んで、自分の子が自閉症という障がいかもしれないとわかった。
42	19	F	A2	51	10	1	○	早期発見は出来なかった我が子ですが(親自身の認識不足だった)就学前に出会った方々とは今でも繋がっている。幼稚園の先生方とは本人も生涯の先生と思っているのでは・・・
43	19	M	A1	51	10	1	○	母子通園だったので、親同士の横のつながりができて力になった
44	20	M	A2	51	10	1	○	一歳半健診後、保健師がすぐに来てくれたことはとても心強く、病院や医療機関の情報を得る事ができた
45	22	M	A1	51	10	1	○	集団の場(保育園)で指摘され、専門家の講演会に誘われる 保育園と通園事業が併用できた 通園事業で友人と親の会を知ることができた
46	22	M	B1	51	10	1	○	児童相談所では同じ障害を持つこのお母さんたちと知り合うことができとても救われた
47	23	M	B1	51	10	1	○	通園施設と幼稚園の両方に通えたので、様子を見ながら幼稚園に移行入園できた。
48	24	M	A2	51	10	1	○	保育園で担任から、他の子ども達にも良い影響になるので気にしないでと言われた。偏食あり食べられない物があると先生が自宅から準備して来てくれた。
49	24	F	B2	70	10	1	○	言葉の遅れが気になるので「言葉の教室」を紹介してくれた。
50	28	M	A1	51	10	1	○	保育園では手のかかる子だったと思うが、拒否されることなく対応していただけた。一緒に通っていた妹がよく世話した。
51	30	M	B1	51	10	1	○	保育園に転園し、理解ある先生方のもと、のびのび通えた。
52	35	M	A1	51	10	1	○	通園した幼稚園では全体が協力的で、無理なく過ごせた
53	36	M	A1	51	10	1	○	就学前に地元小学校で受け入れてくれるか面談があった。
54	37	男	A2	51	10	1	○	自閉症がまだよく分らない愛時代により指導者、医者に会えた、道筋を作ってもらえた。
55	38	M	A2	51	10	1	○	保健師さんが家庭訪問してくれて、近所の同じ障害のある方を相談相手として紹介してくれた

項目10:療育・教育 ○:良かった事 ヒントNO②:就学相談

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ン ト N O	○ ●	コメント ヒントNO②:就学相談
1	7	女	B3	21	10	2	○	進路で迷っていたので、目安になった。
2	8	男	B2	22	10	2	○	就学相談では、いろいろと相談させていただき、自分でも学校を見学することができて、納得して入学することができました。
3	9	男	B2	21	10	2	○	進路で迷っていたので、目安になった。
4	13	M	A2	23	10	2	○	養護学校へ就学を希望したとき対応した先生が養護所属の先生だったので、親切丁寧に説明してくれた
5	14	M	B3	21	10	2	○	6年生の担任の先生が、スムーズに進学できるように中学校に子どもの情報を伝えてくださったこと。
6	20	M	A2	52	10	2	○	主治医から地域の小学校支援級を勧められ、6年間で集団生活が身についた
7	22	M	A1	51	10	2	○	養護学校判定だったが、親の希望を通して地域の特別支援級に入学できた
8	24	M	A2	51	10	2	○	就学相談は受けなくても良いと配慮してくれた。

項目10:療育・教育 ○:良かった事 ヒントNO③:個別の教育、支援、指導計画(通級など)

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ン ト N O	○ ●	コメント ヒントNO③:個別の教育、支援、指導計画(通級など)
1	8	F	A2	20	10	3	○	学校で担任の先生が個別教育計画を作成してくれる。個別面談で取り入れて欲しいことがあれば伝えられるし、親の希望で修正もできる。半年ごとに評価も入り、充実した学校生活を送れている。
2	8	M	0	21	10	3	○	(通級で)なかなか自分から友達を遊びに誘うことができないが、先生がうまく間に入って友達と自然に交わる体験を多く持ってください、最近は自然に何となく一緒に遊び始めることが増えた。
3	9	M	0	21	10	3	○	始業前の教室の喧騒が原因で登校を渋ったときに、保健室登校を許して頂けた。
4	9	M	0	21	10	3	○	クラス替え前日に新担任と顔合わせあり。スムーズに新学年を迎えられた。
5	9	M	精2	21	10	3	○	学校側とコミュニケーションを良くとり、子どもの対応について話し合っている。
6	9	M	0	21	10	3	○	(通級で)通常級で混乱したことのフォローを通級教室ですてくれた。(本人なりの学習の仕方が身につくような個別指導の時間を設ける等)
7	11	M	B3	22	10	3	○	集団行動で、他の子ども達を見ることで、苦手なことにも挑戦できるようになった。
8	11	F	B2	22	10	3	○	毎年、支援計画をたて、苦手なところは個別指導(週1~2回)をしてくれているので、本人も学習しやすい。集中もできるようです。
9	11	M	B2	22	10	3	○	行事に先立って、本人にわかりやすく準備し、交流級と調整をしてくれる。周りの子どもたちを育ててくれた。
10	11	F		22	10	3	○	気持ちを正確に表現できないことで先生に言いに行くことができなかったの、「ヘルプカード」を机の上に出すようにして、クラスの子供たちにも意図を説明して、クラスの子にも困っていることを知らせて先生に届く様にしてくれた。4年たっても手を差し伸べてくれる子が多く助かっている。
11	12	M	A1	22	10	3	○	養護学校へ転入後、刺激の少ない環境で先生方に本人に合わせた対応をして頂き、すんなりと学校にも慣れて行った。
12	12	男	0	22	10	3	○	小学校でTVやラジカセなど、目につくとすぐに触ってしまうものに布をかけてくださり、見えないことで触らないで済み助かった。
13	12	男	0	22	10	3	○	小学校の支援級でパーテーションを使ってくれたので助かった。
14	12	男	0	22	10	3	○	小1の時ハサミが上手に使えなかったが、個別の時間に大好きな時計うあおすし、ドーナツの広告を使って毎日練習させてくださり、ハサミが上手に使えるようになった。
15	12	男	0	22	10	3	○	毎日1時間はある音楽の授業に参加できず、その時間がフリータイムになってしまっていたが、先生が自分のノートパソコンを使わせてくださり、不登校気味だった息子がよみがえった。デジカメで撮った写真を編集してパンフレットなど作れた。

16	12	M	B2 精3	22	10	3	○	ことばの教室で「落語」をまなびました。カツレツ、笑いの場所、言葉づかいなど、勉強になることが多々ありました。
17	12	M	0	22	10	3	○	規定外と言われながらも、小学校では支援級に在籍ししっかりフォローされたことは良かったが、小学校支援級の担任にはもっと知識がほしい。
18	13	M	A2	22	10	3	○	3～6年の支援級担任は、生徒に合わせたカリキュラムを組み、親の意見も取り入れて下さり有難かった。何よりも人間性に学ぶことが多々あり、良き先生に出会えることは、専門性よりも大切と思える。
19	13	M	B3	22	10	3	○	一人で安全に登校できるようにと、ビデオで登校の様子を撮影し、本人に見せながら危ない行動や交通ルールを確認させてくれた。
20	13	M	B3	23	10	3	○	(一年間だけだが)普通級に混乱せず見通しを立て交流に行けるように、年度始めに作る全クラスの時間割りを、支援級を中心に作成してくれた。交流できる科目を固定にして(2時間目と5時間目)普通級の時間割を作成してくれた。
21	14	M	A1	23	10	3	○	上記の環境で負担もあったが、その場の雰囲気多少なりとも読めるようになり落ち着いていられるようになった。
22	14	M	A2	23	10	3	○	養護学校になって、本人も楽しく学校に行けるようになった。細かく見てもらえる。
23	14	男	B2	23	10	3	○	小学校で息子がうつになった時、学区外の学校へ転校させてもらった。
24	14	M	0	23	10	3	○	入学してすぐ、クラスでみんなと同じように行動できず困っていたら、クラス担任・学校長が相談機関をすぐ紹介してくれて早い診断につながったこと
25	14	F	B2	23	10	3	○	小学校では、大変綿密なIEPを作成していただいた。その聞き取りシートも具体的な項目立てがなされていて、自分の子供の特性をきちんと伝えることができ、整理することもできた。
26	15	M	A1	23	10	3	○	養護学校に入学し、マカトンや身振りサインを教えていただき、本人からの要求が分かりやすくなった。
27	16	M	A1	35	10	3	○	授業日課に水分補給タイムを作ったので学校で水分が飲めるようになった。
28	16	M	A1	35	10	3	○	授業日課の中に専用のクールダウンの場所と時間を確保して下さった。
29	16	M	B3	35	10	3	○	小・中の校長先生に理解があり、実生活に役立つ作業学習や環境に恵まれた。
30	17	M	B2	51	10	3	○	(小学校支援級で)熱心に心ある対応をしてくれた。
31	18	M	A1	51	10	3	○	子どもが落ちつかない時や進路先へ子どもの事を正しく伝えるため心理の先生(担任の協力の元)相談、発達検査などしてもらいアドバイスを受ける事ができた
32	19	男	A2	51	10	3	○	養護学校で、自力登校の実現へとスモールステップで計画を実行してくれた。
33	19	男	A2	51	10	3	○	養護学校で、授業以外で本人にできることを校内で探し、仕事への意欲と自信を付けてくれた。
34	19	M	A1	51	10	3	○	登校拒否をしたので、親と先生との話し合いの後、個別の部屋を用意してもらえた
35	21	M	A1	51	10	3	○	優秀な教師に恵まれ、しっかりやってもらえた
36	25	M	A1	51	10	3	○	専門性豊かな担任に恵まれ安心して過ごせた
37	30	M	B1	51	10	3	○	小学校時代は、他校の情緒障害児学級へ通級し個別学習ができた。
38	30	M	B1	51	10	3	○	東海大付属病院に3～12才まで通院し、個別に文字等の習得をさせてもらった。
39	34	M	A2	51	10	3	○	(支援級で)昔でいう特学ですが、小・中学と先生、関わってくれた健常児に恵まれ、とても助けられ、励みになりました。
40	38	M	B1	20	10	3	○	小学校入学時の先生の対応が良かった
41	38	男	B1	51	10	3	○	通級の言葉の教室で発達に合わせた個別教育を受けることができた。
42	38	男	B1	51	10	3	○	通常級で教卓の脇に横向きに席をして、集団指導の中で個別に指導や声かけをしてもらった。

項目10:療育・教育 ○:良かった事 ヒントNO④:教育相談 ヒントNO⑤:教師の専門性

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ン ト N O	○ ●	コメント ヒントNO④:教育相談⑤:教師の専門性
1	14	M	A1	23	10	4	○	上記の際、担当者の提案で、支援校で教育相談を受けること出来(制度の存在さえ知らなかった)助かった。本人の行動もその後落ち着き支援級を卒業できた。
2	19	男	B2	51	10	4	○	給食指導で不登校気味になった時、心理士、県教育センター、市の指導主事が入って、8者面談をし、無理な給食指導はなくなった。
3	38	男	B1	51	10	4	○	集団で苦しくなった時に逃げ込める場所として校長室と保健室を許可してもらえた
4	32	M	A1	51	10	4	○	特総研の教育相談を利用できたこと
5	16	M	B2	33	10	4	○	地域コーディネーターに話を聞いてもらい安心した
6	21	M	A1	51	10	4	○	町田市教育相談所のカウンセラーが傾聴の技術をアドバイスしてくれ、子どもに対する見方が変わり、精神的に楽になった
1	10	F	0	21	10	5	○	校長に相談したり、支援センターの方等の協力でその後はスムーズにいくようになった。今は担任の先生以外も療育機関や陽光園の担当者の同席する面談に参加してくれて、学校として支援してくれるようになった。(3年もかかった)
2	21	男	A2	52	10	5	○	養護学校で担任が自ら自閉症の勉強をし、目に見える支援をたくさんしてくれた。(スケジュールや構造化、ワークシステム等)
3	15	M	B1	23	10	5	○	小学校は学区外だったが、登校班に入れてもらい、理解者が広がった。
4	22	M	A1	51	10	5	○	はじめて支援級担当となった教師に理念から伝えられた
5	34	M	B1	51	10	5	○	よい先生に恵まれ助かりました。
6	34	M	A1	51	10	5	○	小学校の特殊学級で、教師が子どもたちをそのまま受け入れてくれた
7	35	M	A1	51	10	5	○	小学校の時障害の勉強をした教師だったので、安心して任せていました。いろいろ話を聞いてくれたし、相談にも乗ってくれた
8	14	F	B2	22	10	5	○	小学校では、内地留学をして特殊教育の勉強をされた先生がおられたため、自閉症についても、きちんと特性をおさえた教育をしてもらえた
9	12	M	B2	22	10	5	○	スケジュールがあると安心すると伝えたとこ、毎日作成してくれた。
10	24	F	B2	70	10	5	○	高校の卒業式は、先生の理解もあって、名前を呼ばれるまで外で待たせてくれた。
11	18	M	A1	51	10	5	○	担任が色々工夫をしてくれて良かった
12	18	M	A1	35	10	5	○	子どもの良い所、すごい所を見つけてくれて、普通級の子どもに伝えてくれていた

項目10:療育・教育 ○:良かった事 ヒントNO⑥:学校行事

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ン ト N O	○ ●	コメント ヒントNO⑥:学校行事
1	5	F	A2	12	10	6	○	行事は無理ないよう配慮してくれる
2	7	M	A2	22	10	6	○	学年行事(発表)などは学校側の手厚い対応があり本人が参加できている
3	8	M	A2	22	10	6	○	子どもの特性を考慮しつつ普通級との交流を図ってくれる。
4	8	男	B2	22	10	6	○	小学校ではミカン狩りや、宿泊訓練や、たこ焼き作りなど、いろいろなことを経験させていただき、今は一日交流級で過ごしていますが、いろいろとトラブルがあるものの、担任の先生のフォローで守られていると感じています。
5	8	F	B1	22	10	6	○	遠足時に支援級を配慮して行き先などが決められた。
6	8	F	A2	23	10	6	○	運動会と文化祭が交互に年一回あるが、体育や体づくり、音楽の授業等で繰り返し練習し、通しの予行練習もするので、準備が念入りで、子ども達が落ち着いて本番を迎えられる。
7	11	F		21	10	6	○	集団での表現(ダンス)など、自分の位置が覚えられないので、いちばん最後にしてもらうなど、分かりやすい場所に決めてもらい、本人も安心して練習に参加できた。
8	11	F	B1	22	10	6	○	卒業式で在校生代表学年として出席した。練習を重ね、見通しを立て、大声を出さず、最後まで参加できた。

9	11	M	B1	22	10	6	○	(遠足で)写真入りのわかりやすいしおりを作成してくれました。
10	12	男	0	22	10	6	○	バス旅行など、車に酔いやすい息子のためにいつも前の席を用意してもらい、息子も安心して参加できた。
11	12	M	B2	22	10	6	○	担任もしくはヘルパーが付き添ってくれて、学年と同じように行事に参加できている。
12	14	M	A1	23	10	6	○	運動会でソーラン節を踊ることとなったが、やる気もなく真似することも出来なかったの、太鼓をたたく係に任命してくれた。本人も楽しかったようだ。
13	15	M	B1	22	10	6	○	修学旅行で、本人が苦手とする観光地がルートに入っていたが、個別対応も可能だと学校側から提案してもらえ、参加することができた。
14	15	M	A1	23	10	6	○	地域の小中学校の行事では、無理なく参加できるよう、様々な配慮がなされ
15	15	M	B1	35	10	6	○	ほとんどの学校行事において、補助の先生がつき、本人にわかりやすい支援(手順書、スケジュール、カード、言葉かけ)を受けることができた
16	17	M	B2	23	10	6	○	修学旅行に行けてよかった。(本人)
17	17	M	A2	35	10	6	○	小学校の特学の先生が行事の事前学習をしてくれた。内科検診の前は白衣を着て練習したり、スキー教室の前はスキー靴を持ってきてくれた。
18	17	F	A2	35	10	6	○	行事の時はスケジュールを親と相談しながら作成してくれた
19	17	F	A2	35	10	6	○	学校での余暇の過ごし方も親のようぼうがかなり通った。
20	18	M	0	34	10	6	○	卒業式では、元公立校、養護学校の校長先生が本人の意志を最大限に尊重してくれた
21	18	M	B1	51	10	6	○	聴覚過敏があるため(音楽)文化祭や式典など、事前にスケジュールの確認をし、つらくて参加できない所は退室し、別の場所で過ごすようにしてくれた。
22	18	F	A1	51	10	6	○	学校行事の際、いつも手順スケジュールを作成してもらえ、本人にもわかりやすかった。
23	19	F	A1	51	10	6	○	小学校の卒業式では先生の熱心な指導のおかげで、最後まで参加でき証書も受け取ることができた。
24	20	男	A1	51	10	6	○	(卒業式で)卒業証書授与の場面で椅子から立ち上がることができなかつたら、校長先生が前まで来てくれて座ったままで証書を渡してくれた。
25	20	M	B1	61	10	6	○	高等部文化祭ステージ発表・小、中支援級の交流会などで、大勢の前で演じたり、セリフを言う事で自信がついた。これだけは学校生活の中で良い思い出として残っている。
26	21	男	A2	52	10	6	○	行事への参加ができるように工夫してくれた。
27	23	F	A2	51	10	6	○	小学校1、2年は親と一緒に普通級に通ったので、学校のことが良く分かり、子どもと共通の理解ができた。
28	23	M	B1	51	10	6	○	養護学校では、肢体部門もあったせいか、運動会がなく、夏休み明けの不安定になる時期に無理な教育内容を詰め込むこともなく落ち着いて取り組むことができた。
29	27	M	B1	52	10	6	○	小・中時代、皆と一緒に全て参加できるよう配慮があった。
30	27	M	B2	61	10	6	○	担任教師がクラス全員に、本人の障害を説明してくれた事で、それぞれの理解で本人を仲間として受け入れる気持ちを持ってくれた。
31	33	M	A1	52	10	6	○	運動会の徒競走、マラソンなどで、健常児が声をかけ一緒に走ってくれ励ましてくれた。
32	35	M	A1	51	10	6	○	無理ではと思っても、教師がすべての行事に子どもに合わせた方法で参加させてくれた
33	38	F	A2	51	10	6	○	中学は普通学級の人の中に入れてもらい、運動会、修学旅行その他の行事をすることができた。

項目NO10:療育・教育 ○:良かった事 ヒントNO⑦:家庭・他機関との連携 ⑧:実習 ⑨:進路

N O	年齢	男女	手帳	分類	項目	ヒント NO	○ ●	コメント ヒントNO⑦:家庭・他機関との連携 ⑧:実習 ⑨:進路
1	14	M	A2	23	10	7	○	放課後支援、日中支援などとても助かった。
2	15	M	A1	23	10	7	○	地域の公立保育園の開放保育で子どもの相談ができ、療育機関へとつながった。
3	15	M	A2	35	10	7	○	担任の先生によるが、家庭・家族も支えてくれた
4	19	男	B2	51	10	7	○	「お母さんの勉強室」など療育の場で学んだことを家に持ち帰りいろいろ試した。意思疎通ができるようになり、生活が安定した。
5	19	男	A2	51	10	7	○	親が、親の会や、TEACCHプログラム研究会の会員になったことで、自閉症の理解と支援を学ぶきっかけを持てた。
6	19	男	A2	51	10	7	○	療育センターのプログラムの一環で、養護学校中等部から通所施設で実習ができた。
7	19	男	A2	51	10	7	○	家庭と専門家、医療、教育と常に連携をとる。
8	21	M	A1	51	10	7	○	困った時にトムトムやトレインなど福祉機関に助けてもらえた
9	21	M	A2	51	10	7	○	普通級在籍の時、教育センターの先生が、小学校に巡回指導にきて下さった
10	22	M	A1	51	10	7	○	日中支援・移動支援がなかった時代でも療育センターで預けられ助かった
11	23	M	A1	51	10	7	○	特総研の先生が、写真カードやスケジュールを作ったりアドバイスしてくれた
12	34	M	A2	51	10	7	○	親の会でいろんな勉強をしたり情報を教えてくれたり
13	36	M	B1	51	10	7	○	特総研の先生が小学校に見学に来られ、直接担任に指導して下さり、この子にあったもの、障害児だから初歩的なものばかりでなく教科書に沿って色々学ばせていくことが大切と先生に指導して下さり助かりました
1	19	男	A2	51	10	8	○	実習でスケジュール、ワークシステムなど支援を組み立てて、少しずつ作業現場に慣れさせた。
2	20	女	A1	51	10	8	○	高等部の時に希望した通りに現場実習が行えたので、進路選択に大いに役立った。
3	20	M	B1	61	10	8	○	(クリーニング・箱の製作所・印刷所)障害者との接し方を知らない人達ばかりだったが、本人は段階を踏んで自分に合う仕事が見つけれられて良かった。柔らかいものを扱うより固い物が良い等
4	23	M	B1	51	10	8	○	親の意向を汲んだ実習先の選択や実習先への連絡・支援を行ってくれた。
1	14	M	0	21	10	9	○	それでも、以前に比べれば、選択肢は増えているようなので、それは助かります。

項目NO10:療育・教育 ○4:良かった事 ヒントNO⑪:義務教育以降(高校大学)

N O	年齢	男女	手帳	分類	項目	ヒント NO	○ ●	コメント ヒントNO⑪:義務教育以降(高校大学)
1	24	M	A2	51	10	11	○	高校(養護)では、親の言葉に耳を傾けてもらった。
2	24	男	A1	51	10	11	○	高等部の担任が、県連が主催するトレーニングセミナーに参加してくれて、子どもの支援に関する視点を同じくしながら、3年間教育の場を作ることができて、子どもが生きていく基盤となる教育を受けられた。
3	45	男	精2	61	10	11	○	高校の時の担任の先生が、本人のまじめさを大切に考えてくださり、障害に関しては分かっていたらしくらなかつたと思うが、クラスの中にきちんと居場所があった。
4	23	M	精2	61	10	11	○	オーラルコミュニケーションの授業でも、単独でペアを組まずに会話の練習が可能であることを許可していただいた(高校)
5	26	M	精3	72	10	11	○	相談機関・医療機関が本人のことをよく理解してくれた。
6	16	M	B2	33	10	11	○	中高校と私立に通って情報が少し入る
7	16	M	0	31	10	11	○	中学から高校への連携があったこと(通常級のため、障がいという言葉は用いず、苦手なこと…のように上手く伝えてくれた)。

8	17	M	B3	32	10	11	○	高校では(配慮のある高校を選んだせいもあるが)視覚的支援も取り入れてくれているし、ASDについて教職員がよく理解して勉強してくれている。このような学校が増えるとよいと思います。
9	20	M	A2	52	10	11	○	養護学校で良き師と出会えて成長がみられた

項目NO10:療育・教育 ○:良かった事 ヒントNO ⑫:兄弟児支援 ⑬:地域との交流 ⑭:その他

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ン ト N O	○ ●	コメント ヒントNO ⑫:兄弟児支援 ⑬:地域との交流 ⑭:その他
1	11	M	0	22	10	12	○	年子の妹と一緒に、自分たちの親同士で作った会のレクや他の支援者の方たちが立ち上げたレクに参加していました。当事者本人はその中において楽しそうなのですが、妹はどうして兄の行くところに一緒に行かなくてはならないのか、当事者の子どもたちと一緒に楽しめた時期もあったのですが、今は自分という意識も強い状況をわかってあげられませんでした。本人がある時、ぽつんと言ってくれ、気付けてよかったです。
2	15	M	A1	23	10	12	○	幼児期の療育時に、地域の保育ボラさん達にきょうだい児を預けることができた。
3	15	M	B1	22	10	12	○	兄弟児の担任が、支援級との関わる機会を積極的に設けてくれた。
4	18	M	A1	35	10	12	○	姉のクラスに特学にいる弟の声が届きにくいように部屋の配置を考えてくれた
1	22	M	A1	51	10	13	○	近隣が知っていることで、脱走した時に「矢印」になってくれた
2	23	M	精2	61	10	13	○	図工の時間は、合作課題でも、単独製作を認めてくださった(小学4年)
3	34	M	B1	61	10	13	○	小学校の時、地域の子供会に入れていただいたり、登校班に入れていただいて多くの子ども達に関わってもらった事。
1	21	F	精3	42	10	14	○	小学校時代は、幸い妹であったために姉に頼ることができた(4学年ちがい)
2	22	M	B3	72	10	14	○	中学2,3年は自閉症生徒の経験がある担任で、いじめにすばやい対応してくれた。
3	17	M	B2	23	10	14	○	療育施設たんぽぽ園で適切な指導、診断、今後の見通しがたった。
4	7	M	B2	22	10	14	○	「ゆいはあと」で上記のフォローをしてもらった

項目10:療育・教育 ●:困った事 ヒント①:就学前、早期発見、療育、通園

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ント NO	○ ●	コメント ヒント①:就学前、早期発見、療育、通園
1	7	M	B2	22	10	1	●	ひよこ園で就学相談を行った時、就学時に通える療育の場を教えてほしいと言ったところ「幹旋業務になるのでできない」と言われた
2	7	M	A2	23	10	1	●	ひよこ園で幼稚園は自分で探すように言われたが、受け入れ先が無くて困った
3	7	M	A2	23	10	1	●	ひよこ園を途中退園したら、就学案内の説明会知らせが届かず、自分で調べていく事になった
4	9	M	B2	21	10	1	●	近場に療育先がない
5	9	M	0	21	10	1	●	乳幼児健診では、自閉症について指摘されなかった(首のすわりで指摘されたが、6ヵ月後に問題なしとされた)。
6	10	M	A2	22	10	1	●	幼稚園では、「面倒をみる人もいないし、金銭的にも無理」と言われた。
7	10	男	A2	23	10	1	●	幼稚園に週何度が通園をお願いしたら、園長先生のご厚意で太陽の家から席を移しました。ところが自傷や他害行為を始めるようになると、太陽の家へ戻せないか、他の園へは行けませんかといわれ、本当に困りました。園とは交流という形で意思を通すべきでした。
8	12	M	0	20	10	1	●	就学前、自閉的なこだわりなど通常級は難しいと医師や療育担当者に言われていたが、IQが高いため支援級への在籍は難しいとずいぶん教育委員会ともめた。
9	12	M	0	20	10	1	●	そもそも3歳半健診で発見されていたらもう少し早く療育が始められたと悔やまれる
10	12	男	0	22	10	1	●	1歳6ヶ月の検診で「様子を見ましょう」と言われたが、何とどう様子を見たらよいか分からず、親として見通しや、具体的な対処法や、なぜ様子観察になったのか細かく説明して欲しかった。
11	12	男	0	22	10	1	●	通園では、はだし保育に力を入れていて、足の裏の感覚過敏のある息子にとって苦痛だった。砂場も芝生もはだしで歩けず、熱くなってしまうコンクリートの上を走って行ったり来たりすることしかできなかった。
12	12	男	0	22	10	1	●	通園では、視覚支援をしていなかった。周りに公園がいっぱいあり、その日に行く公園を前もって知らされなかったため、曲がり角の度に思っていた子行き先と違うと、機嫌を悪くする子どもがいっぱいいた。先生に無理に引っ張って連れて行かれていた。
13	12	M	B2	22	10	1	●	診断を受けたが、すぐ受けられる療育先がなかった。
14	12	M	B2 精3	22	10	1	●	療育先で別の親から、息子の言動や態度を療育が足りないと言及された。
15	13	M	A2	23	10	1	●	生活訓練会で集団行動が出来ず、母子で孤立。指導者は保育士資格のみで障害児療育の知識、経験が無くフォローしてもらえなかった。
16	13	M	A2	23	10	1	●	通園では、OPなどの予約が月に1~2回しか取れない程混んでいた。先生が足りないのはわかるが、保育所や幼稚園に通えないので、そのまま小学校へというのは不安でした
17	14	男	B2	22	10	1	●	通園施設で、息子は家以外でだ小便できなかったの、園ではずっと我慢してつらそうだった。時間を短くしてもらえば良かった。
18	14	F	B2	22	10	1	●	小さい頃、病院での診断が「自閉的傾向」であって「自閉症ではない」(三つ組みがそろってない)といわれたため、自分の子供は自閉症だととらえていいものか、その当時は大変戸惑った。別の機関の先生に、はっきりと自閉傾向と自閉症は同じと言ってもらってから、やっと療育に向き合えるようになった。気休めの言い方は、親が方向を見定めるのに逆効果だと思った
19	14	M	A1	23	10	1	●	乳幼児健診で「要注意」となったが、何をどのように注意するのか、どんな病院に行けば良いのか全く教えてもらえなかった。
20	14	M	A1	23	10	1	●	早期発見が遅れ「様子を見ましょう」で1年以上経過した。
21	15	M	B1	22	10	1	●	保育園にて療育施設で薦められた、絵カードやスケジュールなどの使用をお願いしたら、かえって話ができなくなるのではないかと言われてしまった。
22	15	男	A1	23	10	1	●	幼稚園の年中の3月に引っ越してきたが、通園施設、幼稚園12ヶ所に入園を断られ、半年間どこにも行けませんでした。義務教育ではないため行政などどこも対応してくれなかった。

23	15	M	A1	23	10	1	●	幼児期はあいまいな指導が多く、療育手帳や親の会の存在は非開示だった。
24	15	M	B2	34	10	1	●	丁寧に見てくださったが小中学校へ情報やノウハウが繋がらなかった
25	15	F	B1	35	10	1	●	保健師の家庭訪問で障害があることがわかったが、こちらが望んでいるのに医療機関・療育機関へ繋げてもらえなかった。あの時、専門機関へ繋げるシステムがあったら、親子で苦しまなくて済んだのと思う。保健師の対応がお粗末だった。
26	15	F	B1	35	10	1	●	小学校では自閉症を理解してない担任で苦勞した
27	16	M	B3	23	10	1	●	入園前、はっきりとした診断名がつかず、申請しても介助員がつかず不安だった。
28	16	M	精3	32	10	1	●	早期発見後、療育の場所、分量が足りない。
29	16	M	B2	33	10	1	●	療育が市にはない
30	17	M	A2	23	10	1	●	相談機関に相談したとき、親身になってもらえないことがあった。(分からない。知らないといわれたり、「3歳半でオムツがとれたのは遅いですね。」などと発達の遅れを親に自覚させるような言動)相談機関の相談者は、知識や解決策を思い浮かなくても否定的なことは言わないでほしいと思った。子どもの障害を受け入れられていない時は絶望的な気持ちになるので。
31	17	M	A2	35	10	1	●	受け入れてくれる幼稚園があまりなかった
32	18	F	A1	51	10	1	●	療育センターから就学への移行はスムーズではなかった。それまでの対応を教育の場で活かすことは難しかった。
33	18	M	A2	51	10	1	●	一時的に通った地域の支援学級で担当が決まらず教科の教師が交代していやいや見ていた。また、近隣の地域の中学の支援学級では自閉症の子の受け入れ体制はない、ほかの生徒が怖がると言われ、母子ともに嫌な思いをした
34	18	M	A2	51	10	1	●	療育通園 多動の子どもを母が押さえつけて、皆と同じ行動をさせていた。
35	18	F	A1	51	10	1	●	1歳半で早期発見したが、それから先の療育の手立てがわからなかった。
36	19	男	B2	51	10	1	●	障害児通園の「言葉の教室」に行った時、幼稚園に行くのなら「言葉の教室」は利用できないと言われた。
37	19	男	A2	51	10	1	●	市の療育相談室では、嘱託医や心理士からも告知が無く、専門療育が遅れた。
38	19	男	A2	51	10	1	●	幼稚園に通いながら、行政の療育相談を受けたかったが断られた。
39	19	M	A1	51	10	1	●	口頭指示で訳もわからず、動かされていた。
40	19	M	A2	51	10	1	●	「たんぽぽ教室」通い始めた頃、泣いている息子を無理やり椅子に座らせ、後ろから羽交い絞めして押さえ「そのうち慣れるから」と保育士が言う。こんな指導の所には通えないと思い退園した
41	19	M	A2	51	10	1	●	専門的な指導を受けたかったがね厚木市内には無く、市外まで通った
42	19	M	B2	72	10	1	●	偏った発達があると三歳児検診で言われただけでそれでも就学時にふつうに小学校の就学は可能とのことで入学した。自閉症や発達障害の可能性や、専門医などの受診など特に示唆されなかった。小学校の間知的障害は軽度として県の児相にお世話になっていたが、療育手帳もことも説明してくれなかった。そんなわけで中学に入って普通級内でひどいじめにあい、市の児相に発達障害ではないかと相談してようやく自閉症と療育手帳の取得に至った。
43	21	M	A1	51	10	1	●	保健所、病院に生後7ヶ月から相談していたが、様子を見るようにとだけで、障害児と診断されたのは3歳すぎていた。もっと早く診断され、もっと早く療育を受けたかった。また、幼児期に適切な療育の場がなかった。
44	21	M	A1	51	10	1	●	ひよこ園はいっぱいで他市の通園施設に通った
45	21	男	A2	52	10	1	●	(早期発見)様子がおかしかったので、小児科に医師(かかりつけ)に相談したが、専門機関を紹介してくれず、次の健診までただ待つしかなかった。
46	22	男	A1	51	10	1	●	障害の告知が行われなかった。
47	22	男	A1	51	10	1	●	周りの人々(母親)が、ハッキリ障害の告知をされていなかったなので気を使った。
48	22	M	A1	51	10	1	●	1、5検診を通過してしまう
49	23	M	B1	51	10	1	●	20年前は、通園施設は市の保育士が療育にあたり、専門性はなかった。
50	24	M	A2	51	10	1	●	保育園で園長から保育園より病院や陽光園に行くように言われた。

51	24	M	A2		10	1	●	児童相談所では様子を見ましよう、特総研では自閉症ではないと思うと言われた。もう少し専門機関への紹介などがあれば対応が変わっていたかと…
52	25	M	A1	51	10	1	●	相談場所がわからなかった。母子家庭を理由に通園施設を断られた
53	27	M	B2	61	10	1	●	医療、療育機関では、いつも「様子を見ましよう」と言うだけで、具体的な指導なし。
54	30	M	B1	51	10	1	●	普通の幼稚園に3才で入園したが、多動のため退園せざるを得なかった。
55	32	M	A1	51	10	1	●	親が異変に気づいても必要な療育へとつながらない。
56	34	M	A1	51	10	1	●	療育相談ができるところを探すのに苦労した(情報を得る手段がなかった)
57	34	M	B1	61	10	1	●	早期発見)今ほど自閉症について情報がなかった事。祖母がたまたま見ていたテレビ番組で自閉症の事を知り、出演されていた先生の病院に連絡をとり診ていただいた。本人2歳8か月の時
58	35	M	A1	51	10	1	●	早期発見できても次に何をしたいか具体的なことが分からなかったし、勉強する機会がなかった
59	35	M	A1	51	10	1	●	近隣の幼稚園で入園拒否された
60	35	M	A1	51	10	1	●	幼稚園に入れたため、何もできないこと、はじめなかったこと、一人浮いた状態だった
61	35	M	B1	61	10	1	●	自閉症ではないと児相で言われた。数年後医師がカルテを書いているとき覗いたら自閉的傾向と書いてあった。

項目10:療育・教育 ●:困った事 ヒント②:就学相談

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ト NO	○ ●	コメント
1	10	男	A2	23	10	2	●	就学の相談も、「白浜での子どもの様子を見る」ための審査が長くて、子どもが泣き叫ぶほどになってしまい苦痛でした。通園中や、親との面談の中で決めることはできないものかと考えてしまいました。
2	11	男	A1	23	10	2	●	できれば何年かは特学に通わせなかったが、見学に行った先の特学の先生に「一人で何人も見ているから大変」と案に来てもらったら困ると言うニュアンスのことを言われた。
3	12	M		21	10	2	●	就学前に入学予定の小学校の校長・教頭・支援級の先生と面談し、子どもの様子・特性を説明し理解を得ようとしたが、いざ4月になると校長は変わり普通級在籍だと支援級の先生は関わりが無いといわれた
4	12	男	0	22	10	2	●	選択肢があまりなく、他にいくところがないからというのが悲しかった。
5	12	M	A1	23	10	2	●	就学の時期に養護学校の定員に余裕が無かったためか、市内の就学先を決めるのに「できるだけ地域の支援級へ行行って欲しい」という傾向があった。入学後、しばらくして軽度の発達障害児童の人数が増え、重度の児童に対する対応が難しくなっていた。本人の居場所がなくなり、とてもつらい思いをした。
6	14	M	A1	23	10	2	●	支援級から特別支援校への転校を考えたが、定員オーバーで不可と言われた。
7	15	M	0	22	10	2	●	幼稚園から小学校に上がるときに、情報が何一つ伝わらず、入学から1か月半で不登校になった。
8	15	M	A2	35	10	2	●	何の専門家だかわからないが、数分間だけ子どもと接しただけで進路を決める
9	16	M	B1	35	10	2	●	就学相談で自宅から一時間半かかる養護学校か分教室かを進められ、車で五分の学区外はダメと言われた。結局県会議員を通して学区外にすんなり入れた。あの時の苦労はなんだったのか。
10	19	M	B2	51	10	2	●	親が就学に不安を持っていたため、幼稚園卒園前に教育委員会の先生に園に来てもらい、子どもの様子を見てもらったが、「他の子どもたちがこの子のことを仲間と認識しているので大丈夫。心配のしすぎ」と言われた。
11	19	男	B2	51	10	2	●	就学指導会議を受けても、誰も息子がどういうハンディキャップを持っているか説明してくれなかった。
12	19	男	A2	51	10	2	●	地域の小学校に入学を希望したが、自閉症児でも健常児でも同じ対応しかできないと言われた。
13	19	男	A2	51	10	2	●	学区の学校には特別支援級が無く、地域で受ける教育は断られた。
14	36	M	A2	51	10	2	●	とても適切とは言えませんでした

項目10:療育・教育 ●:困った事 ヒント③:個別の教育、支援、指導計画(通級など)

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ン ト NO	○ ●	コメント 分類:日中活動の場別 (20:小中学校、21:通常級、22:特別支援学校級、23:特別支援学校、) (34:通信制高校、35:特別支援学校高等部) (51:通所福祉施設、52:入所福祉施設、72:その他)
1	8	M	0	20	10	3	●	自閉症の程度が軽いということから、支援学級から普通級へ戻ることを勧められた
2	8	M	0	20	10	3	●	市内のすべての小学校が交流級の方針を取っていたため学校生活において本人にあった構造化を図ることができなかった
3	7	女	B3	21	10	3	●	担任により指導方法が異なる
4	9	男	B2	21	10	3	●	勉強の介助員の時間が短すぎる。週1~2時間では無理です。
5	9	男	B2	21	10	3	●	担任により指導方法が異なる
6	11	F		21	10	3	●	支援シートがクラス替え後に新しい担任に引き継がれなかった。(転任→新任)
7	14	F	0	21	10	3	●	小学校では特別支援教育が進み、通常級在籍でも支援を受けることができたが、中学校では取り出ししかない
8	14	M	B3	21	10	3	●	情緒の通級教室で、他の子とトラブルがあったとき、自分が理解してもらえないと言って、卒業直前に通えなくなってしまった。
9	8	M	A2	22	10	3	●	学校は1年毎の目標を立てることになる。将来を見据えて長期間にわたる見通しを持つことは難しい。就学前→小学校→中学校→将来と一貫した指導計画の引き継ぎが行なわれることを望む。
10	9	F	B2	22	10	3	●	介助員がつかず、交流級でフォローしてくれる人がいない。誤解からのトラブルあり。
11	10	M	A2	22	10	3	●	小学校では、「ここは養護学校ではない」と主任に言われた。
12	11	M	B3	22	10	3	●	支援級の児童全員で一つの活動をすることが多い。
13	11	M	B3	22	10	3	●	個別での勉強が好きなのに、なかなか対応してもらえない。
14	11	M	B1	22	10	3	●	支援級で合わない子がいる。(お互い様ではあるが、競争心が強く、標的にされることが多い) 学年・性別・レベルが同じため、どうしても行動を共にすることが多い。息子とその子と嫌なことがあると、ストレス発散の矛先が、別の(弱い)子へ行ってしまう。
15	11	M	B1	22	10	3	●	支援級の人数が多き、4月・5月は先生が低学年にかかりきりなため、高学年まで目が届かない。
16	12	男	0	22	10	3	●	1年半「らんぼうにドアをあけません×」の張り紙をされた。デイサービスから「やさしくあけてくれるとうれしいです」の張り紙でできるようになったことを紹介をされ、撤去された。
17	12	男	0	22	10	3	●	小学校での視覚支援は「×」中心だったので、本人が一とき視覚支援を嫌って大変だった。
18	12	M	B2	22	10	3	●	学校では特に支援シートは活用していないと言われた
19	13	M	B3	22	10	3	●	毎年、(支援級)担任が替わり、その度に方針が変わって、せつかく積み上げて出来るようになったことが、できなくなった。支援シートの活用も全く無かった。
20	14	F	B2	22	10	3	●	国?県?が用意した「支援シート」は、項目が大雑把で、書きにくく、その紙自体はあまり役立つものではない。ただ、次学年次学校に向けて、その支援シートをもとに相談をする場がひとつ増えたことについては良かったと思う
21	14	M	A1	23	10	3	●	中学校の支援級では、「中学生らしくふるまう」ことを前提にした指導で協調性を強く求められた。
22	14	M	A2	23	10	3	●	小学校は支援級で、先生が代わると対応が悪く学校に行けなくなることがあった。
23	14	M	A1	23	10	3	●	養護学校で言葉での指示が多い
24	15	男	A1	23	10	3	●	個別指導計画は、支援学校入学当初から作成されていたが、毎回現状の様子の説明だけで、具体的な目標がはっきりしない。
25	15	M	A2	23	10	3	●	中学校の支援級で、3年間1人で放置された。
26	15	M	B2	34	10	3	●	支援級ひとからげで個別の指導計画がなかった

27	15	M	B1	35	10	3	●	中学の支援級では、同じレベルの子ども達とグループになり個別指導しているが国語、算数以外は皆一緒に行動しており、本人にはストレスになっている。
28	15	F	B2	35	10	3	●	自閉症の理解をなかなかしてもらえず、みんなと一緒にやることを良しとされて困った。
29	16	M	A1	35	10	3	●	「卒業後困らないように言葉だけで指示が伝わるように指導します。」と言われた。
30	17	M	A2	35	10	3	●	中学時代に名前の呼び捨てについては、少し気になった。
31	17	M	A2	35	10	3	●	学習の積み重ねがうまく伝わらず、毎年春になると振り出しに戻った。
32	17	M	A2	35	10	3	●	言葉がうまく使えないので、相手に伝えられるか心配。
33	19	男	B2	51	10	3	●	地域の子もたちを知ってもらうために学区の特学に行ったが、特学の先生の対応が悪く、逆にわけのわからない子、変な子というレッテルを貼られて逆効果だった。
34	19	男	B2	51	10	3	●	入学時点で、クリニックで取ったPEP-Rのレポートを渡したが、理解してもらえなかった。個別情報満載のデータの返却は無かった。
35	19	男	A2	51	10	3	●	交流学級での給食では、ボリュームの大きな音楽の中の食事で、舌痛だった。
36	19	M	B2	51	10	3	●	(養護学校で)多人数でいる時、他の子に手がかかってしまいほったらかしになり、一人で何もできずになっていることが多かった。
37	19	M	B2	51	10	3	●	学校から家族への連絡がない(本人に伝えても伝わらず、言葉で説明できないので非常に困った。先生からは、本人に伝えてあると言われた)
38	20	女	A1	51	10	3	●	個別教育計画が保護者になかなか示されず、学校の指導に不信感が募った。
39	20	男	A1	51	10	3	●	(養護学校の個別支援計画)「ルールを守る」「みんなと一緒に過ごす」「授業中は静かに座る」などと書かれた。
40	20	M	B1	51	10	3	●	特学在籍だったが、クラスの一員だからと委員会を強制された。
41	22	男	A1	51	10	3	●	個別教育、個別支援が行われなかったこと
42	23	M	A1	51	10	3	●	地域の小学校に居場所を求めて転校したら、いろんな学校に交流に行かされ混乱した
43	23	M	B1	51	10	3	●	教師の資質により、個別の教育内容、支援計画作成に差があった。
44	24	M	A2	51	10	3	●	小学校で介助無く一人で通級しトラブルあり、中学では、昼食の通級をしないようお願いしたが応じてもらえなかった。
45	28	M	A1	51	10	3	●	小学校6年のとき、それまで特学できめ細かく見ていただいたのが1年に重度の自閉症とダウン症の子が入学して、先生の手が離れがちになったためか登校しても途中で帰ってきちゃうことが多くなった。
46	36	M	B1	51	10	3	●	国語も算数も1から100まで書くだけ、ひらがなの練習ばかりで本人は嫌になって教室にじっとしていられなくなり落ち着きがなかった
47	38	M	A2	51	10	3	●	養護学校高等部の学科ごとの教室の移動、先生の移動、生徒も変わることが理解できず混乱した。また集団の場なので全体で考える、あなたのお子さんもその一人にしかすぎない、と言われた
48	20	M	A2	52	10	3	●	学校の先生に専門知識が無く、親との意思疎通を図るのが難しかった
49	21	男	A2	52	10	3	●	特別支援学級に通っていた時、不登校になったが、何も考えてもらえず、又こちらから申し出るまで支援してもらえなかった。
50	22	M	B3	72	10	3	●	中学・普通級で入学当初環境の変化についていけず、校長に相談したが、取り合ってもらえなかった。
51	24	M	A2		10	3	●	地域のかかわりが少なく、小学校は普通級へ。そこではみんなと同じ区だったので大人になっても引きずるほど大変だった。配慮できるクラス、特別支援級がどこにでもあればよい。

項目10:療育・教育 ●:困った事 ヒント④教育相談x年齢順

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ン ト N O	○ ●	コメント
1	7	女	B3	21	10	4	●	スクールカウンセラー以外で相談できる相手がいない。SCは多忙で面談がなかなかとりづらい。
2	9	男	B2	21	10	4	●	スクールソーシャルワーカー以外の相談できる相手がいない。
3	11	F		21	10	4	●	スクールカウンセラー(巡回)に専門性がなかった。
4	14	男	B2	22	10	4	●	相談機関で、うつになり、フラッシュバックが起こっているのに、原因となった友人と「仲直りの儀式」をするように指導された。
5	20	男	A1	51	10	4	●	(教育相談)担任の関わり方があまりに高圧的過ぎて恐怖感が募り通学できなくなって来たことを保護者が学校に相談。当時の管理職や教員は本人の苦しみより教員の保身に回り、環境が改善されるまで時間がかかった。
6	24	M	A2	51	10	4	●	配慮の必要性を伝えても理解してもらえなかった。
7	25	M	精2	70	10	4	●	当時、アスペルガーという言葉すら知られていず(親も相談機関も)、不登校になって相談を受けたが、「少し休めば元気が出て登校する気持ちになるでしょう、いつも元気な子はいませんよ」と言われ、そのまま結局ずっと登校せず卒業となった。

項目10:療育・教育 ●:困った事 ヒント⑤:教師の専門性 分類別:日常生活の場

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ン ト N O	○ ●	コメント 分類別:日常生活の場 (小中 21:通常級,22:特別支援学校級,23:特別支援学校、) (高校 31:全日制,32:専修,33:定時制,34:通信制,35:特別支援学校) (51:通所福祉施設,52:入所福祉施設,61:普通企業,70:在宅)
1	7	女	B3	21	10	5	●	まったくない。
2	9	男	B2	21	10	5	●	まったくない。
3	9	M	B2	21	10	5	●	殆どの教員は総括教諭の肩書きはあっても障害への配慮ができてない
4	10	F	0	21	10	5	●	1年生の時、担任は障害について説明しても理解せず、その後面談も電話も忙しいことを理由に拒否され、とても困った。
5	11	M	0	21	10	5	●	通常級も支援級も本人にあわず、相談室で補助指導員の先生といることが多いのですが、専門性がなく、一生懸命対応してくださっているようですが、活動が広がらず残念になっています。
6	11	F	B2	21	10	5	●	先生にもよりますが、5年のとき、「できるだろう」「わかっているだろう」と声をかけてくれず、子どもが最終的に怒る、泣いて伝えるという状態になってしまいました。一度不信感を持ってしまうと心を開くのに時間がかかるので、きちんと対応してほしいと思います。
7	12	M		21	10	5	●	言葉の教室の先生に専門性が無く、困る
8	8	F	B1	22	10	5	●	具体的な支援級での計画等が伝わってこなかった。
9	9	F	B2	22	10	5	●	支援級経験のある校長なのに理解不足。知恵遅れクラスと発言し、後日謝罪した。
10	9	F	B2	22	10	5	●	支援級担任が療休、後任の非常勤は放課後不在、連絡帳記載も不可と言われた。
11	9	M	0	22	10	5	●	支援級の担任に「最近、〇〇君は、みんなと同じようにできていい子になりました」と言われた。
12	9	M	B3	22	10	5	●	6年生のお別れ会でちらしずしを作るとき、手順書もなくすべて口頭指示で、子供たちには理解しづらかった。大まかなスケジュール表があった方が、子ども達は理解しやすいのに、それが無い。もう少し先生方に、視覚支援の重要性を理解してほしい。
13	11	F	B1	22	10	5	●	支援級で大きな声を出すと、原因を確かめず「静かにしなさい」と言う教師がいる。
14	11	M	B1	22	10	5	●	(支援級で)毎朝、通常級の子どもたちが遊びに来てくれますが、一緒に遊ぶようにと言われ、本人はどうしてよいかわからない様子でした。
15	11	M	B2	22	10	5	●	以前の支援級の先生が、本人に予定ややり方が伝わるような工夫をせず、できないと自分でする→本人はやる気と自信をどんどん失っていく。「この子たちは、目に見えては伸びないですから」と本人と保護者の前で言う、など信頼できなかった。

16	11	M	0	22	10	5	●	(支援級で)子どもへの声かけを先生が「おい！青年」と呼び、その1年間は時々これを使われ、子どもも名前と呼ばない不思議な先生だと言っていました。次の年からは担任を外れてホッとしました。
17	12	M	B2	22	10	5	●	小学校教育では、教師が1年ごとに替わり、また専門性も無く適切な教育を受けられなかった。学校サイドは自分達は研修も受け、苦勞をしているとの思いがあり、親と教師間の認識に大きなギャップがあり、険悪な状態となった。
18	12	男	0	22	10	5	●	学校の先生が発達障害の名前を知っていても本質を知らない。障害特性上難しいことを「やればできるのにやる気がない」と叱られた。
19	12	男	0	22	10	5	●	落ち着きなくいろいろ触ってしまう子どもに「わざと嫌がらせでしている」と毎日言われ、子どもの口癖が「わざと嫌がらせ」になってしまった。
20	12	男	0	22	10	5	●	教師の力量でいろいろ大きく変わった。小さいことが積み重なって、こじれていくので、全ての先生が一定の力量を持って欲しい。
21	12	M	B2	22	10	5	●	小学6年間で支援級の担任3人が関わったが、勉強不足で子供が混乱する事があった。
22	12	M	B2	22	10	5	●	支援級で、上級生は下級生のお手本になるようにと言われ、下級生向けの課題ばかりに取り組まされた。
23	12	M	B2	22	10	5	●	交流級で、フォローをしてくれない先生がいる。
24	12	M	B2	22	10	5	●	小学校で、特別支援級在籍だが、教師に障害特性の理解がなくて困る。
25	13	M	B3	22	10	5	●	学校の交流級でいたずらの犯人扱いされた時、本人は否定していたのに、付き添っていた支援級の担任が無理やり謝らせた。「将来トラブルに巻き込まれない為に、やっていないことでも謝ることで回避することも必要」と言われた。
26	13	M	B2	22	10	5	●	(小学校支援級で)知的障がい級と情緒級とクラス分けがあるが、両方とも同じ教室で勉強していて、個別の学習についての配慮があまりなく、他の児童の動きが気になって集中できないお子さんもいた。
27	14	男	B2	22	10	5	●	小学校で辛くても「つらい」と言えず、先生に伝わらなかった。顔色で状態を判断してもらえなかった。
28	14	M	0	22	10	5	●	「みんなができるんだから、みんなが当たり前に行うことだからと強要・気持ち押し付けなくてほしい」(本人談)
29	15	M	B1	22	10	5	●	担任に、自閉症協会作成のDVD視聴をお願いしたが、理解十分なので見なくてもよいと言われた。親が新しい情報を伝える難しさを感じた。
30	15	M	0	22	10	5	●	小学校1年の時、当時の教師全般に言えることだが、自閉症についての知識が浅かった。
31	9	M	A1	23	10	5	●	個別より集団を第一に考える
32	12	F	A2	23	10	5	●	どの場面で出会った先生方も、皆、子どもに対して一生懸命何かしてくれようとしていた。やる気や愛情はあったと思う。ただ、親の思いや本人の思いと方向性が微妙にずれていることもあり、それをどのように伝えるかが難しく、なかなかできなかった。
33	14	M	A2	23	10	5	●	教師に理解が無く、こちらの話もきちんと聞いてくれず、子どもが混乱した。
34	14	M	A2	23	10	5	●	支援級の先生には情緒的に問題がある先生に受け持たれ、とても苦勞した。
35	15	男	A1	23	10	5	●	個々の理解に応じた対応という点についてはできていないと感じる。
36	15	男	A1	23	10	5	●	問題行動が出てきても、それを押さえるだけ
37	15	M	A2	23	10	5	●	休暇が多く、全くあてにならなかった。
38	17	M	B2	23	10	5	●	(小学校交流級で)障害についての知識が無く、理解しようという姿勢が感じられなかった
39	16	M	0	31	10	5	●	先生に伝えていたにもかかわらず、「罰」として、お楽しみ会に参加させないとかがあった。
40	16	M	精3	32	10	5	●	先生個人の意欲、能力差が激しい。
41	16	M	B2	33	10	5	●	小5の時の担任が無知だった
42	15	M	B2	34	10	5	●	何も知らなかった。勉強してくれようとしなかった
43	15	M	B1	35	10	5	●	専門性はほとんどなく、各先生の感覚でやっていることが多かった気がする。相談機関の先生に学校を訪問してもらい、直接アドバイスをもらった
44	15	M	B1	35	10	5	●	地域の支援級の先生に障害特性がわかっていない方が多く、問題を起こす子と言われ続けた。

45	15	F	B2	35	10	5	●	新卒の若い先生が担当になりとまどった。なにもかもが一からのスタートで理解をもって接してくれたのか不満だった。
46	16	M	A1	35	10	5	●	「卒業後困らないように言葉だけで指示が伝わるように指導します。」と言われた。
47	16	M	A1	35	10	5	●	聴覚過敏なのに鳴いている蝉を渡されてパニックになった。
48	16	M	A1	35	10	5	●	登校時)大きな声で「お早う!!」といきなり背後から抱きつかれパニックになった。
49	16	M	B1	35	10	5	●	支援級担任の人間性??目の前にいる子どもを見てくれない(本人の事を)。指導に疑問が多くあり、本人が不安定になった。
50	16	M	B1	35	10	5	●	(支援級で)スケジュールなどを持ち込もうとしたら「そういうものはお家でやっただけですか?私は私のやり方でやらせてもらいます」と言われた
51	16	M	B1	35	10	5	●	(支援級で)失敗にとても弱かったのが、成功できるような支援(配慮)をお願いしたら「あなたは先回りして手を出しすぎ・子どもは失敗から学ぶもの・障害のあるなしは関係ない」と言われた
52	16	M	B1	35	10	5	●	(支援級で)朝の会や帰りの会、行事の事前学習など、すべて言葉だけで進められていた為、視覚的な手がかりを使って欲しいと頼んだら「言葉はたくさん聞けばわかるようになります。そういうもの(視覚支援)は必要ありません」と言われた
53	17	M	B2	35	10	5	●	本人が恋愛問題で問題を起こし、本人は反省しているが、それが原因で仲間外れになった。2泊3日の宿泊学習に参加するため、担任に問題解決に導いて欲しいと依頼したが、「それは無理です」と断られた。
54	17	F	A2	35	10	5	●	着替えを四年生の時男子と同じ教室で行っていた。
55	17	F	A2	35	10	5	●	言葉があるだけで物事を理解していると評価され混乱した。
56	18	M	A2	51	10	5	●	
57	19	F	A1	51	10	5	●	支援級で、好きなビデオを1時間目の授業後見せると約束したのに、我慢できたからといって、2時間目、3時間目と延ばし、結局6時間目まで見せなかった。
58	19	男	B2	51	10	5	●	訓練重視の先生は、本人への説明や意思確認も無く指導をし、基本的人権を守る姿勢や障害理解があるとは思えなかった。
59	19	男	A2	51	10	5	●	言葉だけの指示が多い。
60	19	男	A2	51	10	5	●	意味のない言葉かけが多い。
61	19	男	A2	51	10	5	●	先生の思い通りの行動をとらせようと、後ろ襟やリュックをつかみ移動させた。
62	19	男	A2	51	10	5	●	学校行事への参加の時の感覚過敏には、親が対応策をとった。
63	19	M	A1	51	10	5	●	子どもの状態を理解してもらえず問題行動を頭から止めさせようと行動療法で益々自傷がひどくなった
64	19	F	A2	51	10	5	●	地域の小学校に通ったが学習室の教師は全く専門知識がなかったのではないかと思う。
65	19	M	A2	51	10	5	●	小学校支援級の教師も専門性が無かった
66	19	F	A1	51	10	5	●	本人からの意思表示、サインを汲み取ることができず、そのため本人の気持ちかわからない。不調になっても原因がわからない。待つ時間が少なく、観察していない。
67	20	女	A1	51	10	5	●	子どもが養護学校の小学部に入學して間もなく、教師から「私たちはプロじゃない」と言われ、返す言葉がなかった。
68	20	男	A1	51	10	5	●	(養護学校高等部)障害特性、個人の特徴を理解してくれようとしなかった。いつでも自分の支持通りに行動することを強要した。問題行動が増えると恫喝し、パニックになると力づくで押さえ込んだり洋服の襟を持って静止された。それまで使っていたスケジュールもタイマーも嫌いになった。
69	20	M	B1	51	10	5	●	どの教育機関でも専門性のある教師が少なく、あまりにも多くの事柄に対し、混乱している(本人の少ない経験と努力でカバーしなくては行けないのは刺りにも気の毒)
70	21	M	A1	51	10	5	●	養護学校で療育のアドバイスを期待していたが専門性を感じられない
71	22	男	A1	51	10	5	●	障害児教育を学んでいない教師が行う「障害児に何をしても…」という意識
72	22	M	A1	51	10	5	●	理念のない中途半端な知識
73	22	M	B1	51	10	5	●	養護学校高等部の教師については専門性を疑う場面が多々あった。教師によって差がありすぎる

74	22	M	A1	51	10	5	●	教師に個別の本人に合わせた教育は受けられなかった
75	23	M	A1	51	10	5	●	養護学校高2のとき「話せばわかります」と言って写真カードを使わなくなったが、担任が変わると親の意見や希望を取り入れ、写真カードやジェスチャーを取り入れてくれた
76	23	M	B1	51	10	5	●	教師の専門性に差があった。
77	24	M	A2	51	10	5	●	小中学校の先生に専門性がない。
78	26	M	B1	51	10	5	●	子どもに合わせた課題をと要求したが、教科書を使った学習が進められた。(中1)
79	28	M	A1	51	10	5	●	中学3年の時先生にけがをさせてしまい、それからはパニックを起こすと複数の男の先生が取り囲む状態が繰り返され、最後には自傷で自分の前歯を抜いたしまったことから、中学へ行くのはやめて、養護学校へ移る間(9月から12月)県の施設に通所した。
80	31	M	A2	51	10	5	●	担任の先生が本人の前で何でも話すので、本人が先生を嫌いになり、学校に行かなくなった。学年が変わり別の先生になったら毎日学校に行くことができた。
81	34	M	A2	51	10	5	●	教師に自閉症の知識がなかった
82	35	M	A1	51	10	5	●	教師の自閉症に関する専門性が皆無。
83	35	M	A1	51	10	5	●	小学校では専門性も理解もなく普通級で勤まらない教師が特殊学級に回されてきたという感じだった。特に年配の女性教師の普通の子の枠に無理やり当てはめようとする言動はひどいものだった
84	36	M	A2	51	10	5	●	多動でよく行方不明になっていました
85	37	男	A2	51	10	5	●	小学校の特殊学級の何も分からぬ教師に毎日連絡帳で指導方法を書き連ねました。
86	37	男	A2	51	10	5	●	連絡ノートに愚痴を書かれているようで困ります。
87	38	F	A2	51	10	5	●	小学校時は専門の教師に出会わなかった
88	33	M	A1	52	10	5	●	小学校の担任が障害を理解せず、学習や行事を行う際の不適切な指導のもと本人がパニックを起こすと、問題行動を起こす(校内なのに)と電話で呼び出された。
89	18	F	B1	61	10	5	●	通園施設で大きな音や怒声にパニックを起こすと、「そういう音に慣れるために、家庭でもそういう状況をつくってみてほしい」と言われた
90	20	M	B1	61	10	5	●	高等部三年になって「社会にできるには・・・」とことごとく言動を注意され家で泣いていた
91	35	M	B1	61	10	5	●	普通小学校入学二日目に担任が不在だったので、池の囲いの中に入っていると校長に呼び出された
92	45	男	精2	61	10	5	●	中学時代、いじめにあい、教師に相談したが、単なる遊びくらいだろうと言われ、何も改善されなかった。
93	24	F	B2	70	10	5	●	教室にいられない子だからと、誰もいない図書室に一人でいさせた。
94	24	F	B2	70	10	5	●	卒業式前に「この子は集団の中に入れていけないので、先生一人で卒業証書を渡してください。」と中学の先生に要望し、先生もそれを了承してくれたのに、当日は先生・職員皆集めて卒業証書を渡そうとした。娘は「話が違う」と怒ってその場で証書を破って帰った。
95	25	M	精2	70	10	5	●	不登校になった最初(中2)に、担任の先生からは「こういうタイプの生徒さんは、一度不登校になると卒業まで来られないことが多いです」と言われたので、親も無理強いせず、本人のしたいようにさせてしまった。
96	24	M	A2		10	5	●	特別支援級での先生同士の連携ができず、また学校の出来事等の連絡がなく、三年間無事過ごしているのかと思っていたが、実際は違っていたことを後で聞くこととなった。専門性もなかった。

項目10:療育・教育 ●:困った事 ヒント⑥:学校行事×年齢

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒト NO	○ ●	コメント ヒント⑥:学校行事×年齢
1	13	M	B3	22	10	6	●	音楽会や遠足の行事で、付き添える職員がいないとの事で、親が付き添った。
2	14	M	A2	23	10	6	●	学校行事への参加については、先生によって、対応によって嫌がったり、楽しがったり、まちまちでした。
3	15	M	0	22	10	6	●	運動会の時期が早すぎた。学校になじむ前にいきなり目の回るような変化に襲われ、登校拒否にきっかけになった。
4	15	M	A1	35	10	6	●	卒業式の練習で、聴覚過敏があり本人が辛い状況にもかかわらず、顔が笑っていたからを理由に、体育館から出たいとの要求を無視し最後まで参加させた。放課後、買い物中に突然パニックを起こした。その日からパニックが酷くなり、学校へ行くのを嫌がるようになった。不安定さは一年以上つづいた。
5	16	M	A1	35	10	6	●	運動会での子どもの面倒
6	17	M	B2	23	10	6	●	運動会の種目が大変。(本人)
7	18	F	B1		10	6	●	小学校で担任から、何か起きると迷惑がかかるから、遠足は休むように言われた
8	18	F	B1		10	6	●	中学校支援級で修学旅行は親の付き添いがないと参加不可。2人分の費用を支出。
9	19	男	B2	51	10	6	●	運動会の徒競走では、1年時男女混合だったものが、2年時男女別となり、説明がなかったため混乱し、パニックになった。
10	19	男	B2	51	10	6	●	遠足で、事前に先生と児童とでスケジュールを作ったのに、その通りに行かなかったため、大騒ぎになった。
11	19	男	A2	51	10	6	●	配慮できないという理由で特別支援学級の児童は、通常級の学年行事への参加の機会がなかった。
12	19	男	A2	51	10	6	●	学校行事の運動会では、親がスケジュール表を作り、見通しを持たせ、パニックにならないよう対応した。
13	23	F	A2	51	10	6	●	小学校1, 2年は親と一緒に普通級に通ったので、親の体調の悪い時に困った。
14	24	M	A2	51	10	6	●	行事の練習に時間を取られたが、本人は参加を嫌がった。
15	24	F	A1	51	10	6	●	普通日課と特別日課(運動会・文化祭)に本人が対応できずパニックになっていた
16	25	M	A1	51	10	6	●	運動会の順延で食欲失った
17	31	M	A1	51	10	6	●	中学の卒業式に担任の女性の先生と普通級の若い情勢の先生以外、息子さんは飛び跳ねるので、みんなの卒業式を台無しにしてしまうので欠席してほしいと言われたが、この二人の先生が頑張ってくれて、卒業式に出席できました(二人の先生以外の先生へは絶望しました)
18	35	M	A1	51	10	6	●	小学校では障害特性に応じた配慮等は学校ぐるみで何もなかった
19	37	男	A2	51	10	6	●	集団での行事は苦手で、おどおど動いていたのを思い出します。
20	38	男	B1	51	10	6	●	2ヶ月位前から、延々と文化祭の練習があり、練習の日時場所についての提示が無かった。
21	45	男	精2	61	10	6	●	運動会、文化祭、修学旅行などの行事が苦手で参加ができなかったが、サボっていると思われ、注意を受けた。

項目10:療育・教育 ●:困った事 ヒント⑦:家庭・他機関との連携 ⑧:実習

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒト NO	○ ●	コメント ヒント⑦:家庭・他機関との連携 ⑧:実習
1	12	M	0	20	10	7	●	学校・教育委員会、児童相談所、医師とまったく協力体制がない。
2	12	M	B2	22	10	7	●	かながわAと学校との介入時、担当教諭が面談を拒んで逃げた
3	16	M	0	32	10	7	●	加害者にならなければ、ケース会議にしてもらえない。親が各機関から情報を集め、逐一伝える。
4	19	男	B2	51	10	7	●	小学校では、先生と親とが一緒に相談しながらという姿勢が無く、不安だった。
5	20	男	A1	51	10	7	●	(相談機関)アドバイスはしてくれるが、学校と連携ができていないのでうまく使えなかった。
6	24	M	A2	51	10	7	●	子どもが小さい時、母親だけでの通院等は大変だった。
1	5	F	A2	12	10	8	●	長い目でみてほしい

2	17	M	B2	35	10	8	●	学校内での作業実習で、対人関係に問題があり心配である。
3	19	F	A1	51	10	8	●	ガラスを実習中に割ったが、県教育委員会の保険は使えず、個人の保険で対応した。
4	20	男	A1	51	10	8	●	夏休み前にうつ状態がひどく実習にいけなかった。後期に実習予定の日に学校がインフルエンザのため休校になり、実習が中止になった。実習先に進路担当が自分に不利になるような発言をした。
5	34	M	B1	51	10	8	●	実習で何回か行きましたが周りの人たちの理解がうまくいかず苦しみました

項目10:療育・教育 ●:困った事 ヒント⑨:進路 ⑩:義務教育以降(高校・大学)

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ト NO	○ ●	コメント ヒント⑨:進路 ⑩:義務教育以降(高校・大学)
1	12	M	B3	21	10	9	●	将来の就職が全く見えない。
2	12	M	B2 精	22	10	9	●	支援級に在籍しながら通常級での勉強はできないこと(内申はつかない)
3	14	M	0	21	10	9	●	普通の高校生になりたいという本人の思いをかなえるためにも高校には行かせてあげたいが、ある程度の支援を求めると、公立高校では選択肢が少なく、私立のサポートのある高校では学費が高いので、どうしてもどちらかに負担がかかってしまう。
4	17	M	B3	32	10	9	●	小学校から中学へ進学する際に、保護者と中学側の間に入ってくれる立場のコーディネーターが欲しいと思った。
5	17	M	A2	35	10	9	●	本人の特性を理解して相談に乗ってもらえない。
6	17	M	B2	35	10	9	●	養護学校の職業適性検査で、社会性は小学生並みとの結果だったが、今後社会性を高められるか不安がある。
7	19	M	B2	51	10	9	●	進路相談で一方向的に決めつけられた
8	19	F	A1	51	10	9	●	今まで療育や教育で身につけてきたことを生かせる仕事や生活の場を選ぶことができない。そういう場がない、少ない。
9	19	F	A1	51	10	9	●	養護学校での施設実習が2, 3か所しか行かれず選択するのに困りました。もっと色々な場所で出来ると良いと思う。
10	20	男	A1	51	10	9	●	(進路先希望、決定)こだわりが強いという理由で、希望した事業所から断られた。
11	24	F	A1	51	10	9	●	希望する通所へ行くことができず、週に何日か毎に二か所通っていた
1	15	M	0	22	10	11	●	高機能タイプの自閉症の子供にあった受け皿が見つからず、高校進学先を選ぶのが大変。
2	21	M	精3	70	10	11	●	大学時に交流がうまくいかず、障害に気づいたので、療育も受けなかった。
3	21	M	精2	72	10	11	●	大学時に発達障害がわかり、支援を求めたが理解を得られず、断念する状況に追い込まれた
4	22	M	B3	72	10	11	●	私立普通高(校)高校時代にいじめにあっていて、地域の支援センターの相談員に相談することを促したが、話を聞いてくれるけど、いじめに対してどう対応すればいいかアドバイスをくれないので相談に行かなくなった。
5	22	M	B3	72	10	11	●	高校にもスクールカウンセラーがいるが、いつも予約待ちで相談したいときに相談できない状態でいつもいららしていた。
6	23	M	精2	61	10	11	●	大学卒業後でないと関係機関(就労援助センターなど)が使えない(大学のキャリア支援)
7	26	M	精3	72	10	11	●	周囲の支援がなく、退学に追い込まれた。
8	34	M	A2	51	10	11	●	養護の高等部に入ってから、とても不安定になり、今のように教師の自閉症に対する知識もなく、お手上げ状態に近かった。

項目10:療育・教育 ●:困った事 ヒント⑫:兄弟支援 ⑬:地域との交流 ⑭:その他

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ト NO	○ ●	コメント ヒント⑫:兄弟支援 ⑬:地域との交流 ⑭:その他
1	7	M	A2	22	10	12	●	厚木に「きょうだいの会」が無く、兄弟児フォローの場がほしい
2	8	M	B2	22	10	12	●	本人には種々支援があるが、兄弟児への支援が無い。
3	12	M	B2	22	10	12	●	きょうだい児が小さい時、預けられるところが離れているので、子どもを預けて何かすることはあきらめた。

4	17	M	A1	35	10	12	●	支援はあるものの、当の兄弟児が支援を受け入れるのを嫌がっている(中3弟)
5	18	F	A1	51	10	12	●	本人は小学校支援級にいたが、兄・姉が普通級にいて、支援級の先生が兄や姉を頼りにして何度も聞きに行っていた。
1	15	M	B2	34	10	13	●	気軽に参加できない
2	15	M	B1	35	10	13	●	乳幼児に興味があり、公園などで見かけると走り寄ってしまったりして、地域で障害を知っている人が多く許されていた行動だったが、体も大きくなり行動範囲も広がりそういう行動を奇異に見ている人やお子さんが心配な親御さんからクレームが来たことがある
3	23	M	A1	51	10	13	●	養護学校に通学していたら、地域で孤立し、いじめにあった
4	23	M	B1	51	10	13	●	入学先が地区外の特学、中学より養護学校であった為、地域との交流は一切無かった。
5	37	男	A2	51	10	13	●	特異な行動に、社会的に合えば賞賛されたり、合わなければ警察沙汰になるという状態です。
6		M	B2	61	10	13	●	地域との交流はなかった。
1	8	M	0	21	10	14	●	サッカー教室に通わせているが、「暗黙の了解」が苦手で、しばしば他のチームメイトから「早くしろよ」「まだできないの?」といった言葉をかけられる。
2	10	M	A2	22	10	14	●	昨年の交流級での授業参観のことです。1/2成人式というもので、児童一人ずつの発表と先生からの言葉、合唱という内容でした。事前の打ち合わせと当日がまるで順番が違い、全く授業に参加できませんでした。当日、交流級の児童と親からの担任の先生へのサプライズがあり、全く内容が違ってしまっただのことです。
3	12	M	B3	21	10	14	●	日々の生活で困ったことが言えない。
4	12	男	0	22	10	14	●	交流級と支援級の先生同士の連携が悪く、情報のやり取りが遅い。
5	12	男	0	22	10	14	●	教師同士の情報交換ができておらず、同一の指示ではないため、子どもが混乱してパニックになった。
6	16	M	A1	35	10	14	●	支援級での給食指導
7	18	M	0	34	10	14	●	学校生活では支援を受けられても、(塾、習い事など)一歩外へでると本人の生きづらさが露呈してしまう
8	18	M	B1	35	10	14	●	高校2・3年の時に進路のことを考え、見学などに出かけていたと思ったが、母子家庭でフルタイムで仕事をしているので休みがなかなかとれず、平日になかなか見学に行けなかった。
9	19	M	A2	51	10	14	●	高校時の通学にスクールバスがなかった
10	19	M	A2	51	10	14	●	兄弟はいじめにあうので、中学受験をし私立学校に進学させた
11	21	F	精3	42	10	14	●	口頭での説明が解りづらいのに、障害が軽いため、特別な配慮を得ることが難しかった
12	21	M	B2	62	10	14	●	障害名と子育て、療育などが、なかなかしっくりこなくてとても困った。担当の先生や医療機関など、上手くつながらず親の思いとアドバイスが一致していなかった。
13	22	M	B3	72	10	14	●	中学での暗黙のルールが分からず上級生から何度もいじめに遭い、担任に相談したが解決せず上級生が卒業するまで続いた。学年をまたぐいじめ解決は困難。
14	35	M	A2	62	10	14	●	本人は判らない事があると、他人をまねして行なう傾向がある。理解すると自分なりに解釈して行動するが、慣れて来ると間違った行動を取る事がある。
15	37	男	A2	51	10	14	●	何でも夢中になると、親の言葉も聞かないようで、繰り返し繰り返し、モグラ叩きのようです。

項目10:療育・教育 20:望む事 ヒントNO別①:就学前、早期発見、療育、通園

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ント NO	コメント ヒントNO①:就学前、早期発見、療育、通園
1	7	M	A2	22	10	1	幼稚園・保育園がまだまだ「保育」と「療育」は別物だという考え方で療育機関との連携をしようとしない
2	11	M	0	22	10	1	幼少期に親が安心して相談できる方に恵まれると、その後もかわるのだろうと実感します。
3	14	M	0	21	10	1	高機能児の場合、診断時期が遅いので未診断時に子どものことで周囲から嫌な目に会う。診断後は気を使ってくれるようになった。親を一方向的に責めるような態度はやめてほしい。(特に幼稚園の職員)
4	14	M	A2	23	10	1	療育の受け入れ先が少なく、早く入らないとなかなか入れないのが現実です。もう少し気軽には入れればと思います。また、手続きも煩雑です。
5	14	M	A2	23	10	1	就学前の療育は、毎日通園し受けることが有効だと感じています、あけぼの園のような施設がふえたらと望みます。
6	14	M	0	21	10	1	療育のための通園、学校との連携、通院等、親がなかなか正社員で働くことが難しい。(特に小さいとき)
7	15	M	B1	22	10	1	幼児期の療育施設で、保護者向けに障がいについて学ぶ機会が多くほしい。
8	16	M	B1	35	10	1	早期発見早期療育は非常に大切。親や教師が適切に子どもと関わることができるよう、親や教師が学ぶ場(学ばなくてはいけない場)を用意する必要があるのでは?と思う
9	17	M	A2	23	10	1	※ 子どもの発達の遅れに悩んでいる人は自分からは、なかなか相談に行きづらいので、「障害の相談」という形よりも「子育て相談」の様な形から専門的な助言へととなるような形が用意のではないかと思います
10	19	F	A1	51	10	1	専門医が少なすぎる。もっと相談の場を作ってほしい。
11	20	M	A2	52	10	1	厚木では「療育」が望めなかったので自分で探して親子で通った
12	21	M	A1	51	10	1	専門の医師、教師を多く養成し、早期発見、早期療育をしてほしい
13	21	M	A1	51	10	1	自閉症に詳しく、親の話を傾聴する・的確なアドバイスをする相談員がほしい
14	25	M	A1	51	10	1	身近に療育に関して相談できるところがない
15	38	F	A2	51	10	1	①が地域に多くあればと思う。まして初めての子はわからないことが多いので

項目10:療育・教育 20:望む事 ヒントNO別 ③、④

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ント NO	コメント ヒントNO③:個別の教育、支援、指導計画(通級など) ④:教育相談
1	7	女	B3	21	10	3	スクールカウンセラーの曜日を毎年同じ曜日に固定して欲しい。
2	8	M	0	20	10	3	グレーゾーンにいる子どもにたいして支援学級所属でない場合にもきちんとした支援を受けられるようにしてほしい
3	9	男	B2	21	10	3	勉強介助員を週5~6時間付けてほしい
4	9	M	精2	21	10	3	出来るだけ、外の生活がスムーズにいくよう、対外の生活訓練を望む。
5	10	M	A2	22	10	3	事前に告知してもかまわないので、交流級の保護者からも報告が欲しい。
6	11	男	A1	23	10	3	学校で個別の教育を受けているが、専門的な療育(心理・言語・作業)など受けた方がよいのか迷う。身近に高額ではなく受けられるところがあると良い。
7	11	男	A1	23	10	3	高額ではない専門的な療育の場が欲しい。
8	11	M	B3	22	10	3	集団で学べることも多くあると思うが、やはり個々に応じた教育・療育もしっかり受けられるようにしてほしい。
9	11	M	B1	22	10	3	学校での支援を本人にあわせた細かい配慮が欲しいです。
10	12	男	0	22	10	3	支援学級では小1~6と一緒に集団で授業を受けることが多く、個々の違いが著しいのに、一斉に同様の指示での授業だと、一人ひとりに合っていないことが多い。個々合わせることや、小グループの分けて欲しい。
11	12	F	B3	21	10	3	小中学校において「支援教育について」どんな取り組みをしているか、もっと利用者や支援者(先生)にも周知して、より良くなる様にしてほしい
12	13	M	B3	22	10	3	担任が替わっても一貫した支援を受けられるようにしてほしい。そのためにもアセスメントシートを活用して本人の成長を客観的に把握して指導に繋げて欲しい。
13	14	M	A1	23	10	3	特に支援級では「みんなと一緒に」が求められ、明らかに無理なことも強いられて荒れてしまうことが多い。本人の発達度合に応じた細かな指導をしてほしい。

14	15	M	B1	35	10	3	中学校の支援級では、ボーダーラインの子と障害のある子を分離してほしい。
15	15	F	B2	35	10	3	学校見学に行った時、とても良い環境だと感じていたのに、先生は転校され環境が変わっていた。(小動物の世話係を楽しみにしていた)
16	16	M	精2	32	10	3	発達障害に関する理解は進んでいると感じる。支援の質までには至らない。
17	17	F	A2	35	10	3	親とこまめに情報交換しながら本人にあった支援をしてほしい。
18	18	M	A2	51	10	3	親も含め対応する側の思い込みで判断してはいけない
19	18	M	B1	51	10	3	個々の特性を見て、支援計画など具体的にたててほしい。
20	18	M	A1	35	10	3	通園から学校まで一貫してみてくれる療育の場がほしい
21	19	男	A2	51	10	3	教育計画は本人の特性を反映し、特性に応じた支援ツールを作成して、実行すること。
22	19	F	A1	51	10	3	社会で自立した生活を送るために必要な一貫した療育を望む。
23	20	M	B1	51	10	3	B1、2の人の養護学校がほしい。落ち着いて教育できるところがなさすぎる。
24	21	M	精3	70	10	3	グループ授業を減らしてほしい。
25	22	M	A1	51	10	3	大きくて広くて長い目で方針を考えてほしい
26	24	男	A1	51	10	3	本人の「分かる・分からない」を的確に把握して支援を組んでから、療育・教育をしてください。適切な支援の中にある自閉症の子どもは、あまりいじらなくても目を見張る成長を自ら見せてくれます。
27	35	M	A1	51	10	3	大人になった時に働ける人になるよう療育、教育をしてほしい。
28	35	M	A2	62	10	3	彼は言葉で理解するよりも、人のやり方を見て行なう傾向がある。正しいやり方を見せながら言葉かけをしてほしい。フォロー教育(家庭、地域交流等から)
29	35	M	A1	51	10	3	一貫性、課題の共有
30	36	M	B1	51	10	3	障害児だからこのくらい学ばせればおいということではなく、その子のよいところをどんどん広げていく教育をしていただきたいと思います
31	38	男	B1	51	10	3	本人の認知力、理解力などしっかりしたアセスメント(評価)の上に乗って、発達段階に合わせた療育、教育が望まれる。
1	18	F	B1		10	4	発達障害が背景にある不登校について、もっと理解が広がることを望む。
2	22	M	B3	72	10	4	コーディネーターの存在の周知徹底と、職務遂行。

項目10:療育・教育 20:望む事 ヒントNO別 ⑤:教師の専門性

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ント NO	コメント ヒントNO ⑤:教師の専門性
1	9	M	0	22	10	5	専門性のある支援者を育てるには時間が必要。専門性のない方でも、速やかに教育、医療等の専門家と連携し子どもに還元できるシステムがほしい。
2	9	M	B2	21	10	5	教員の知識の向上を求めます
3	9	M	0	22	10	5	教師の自閉症児への理解と適切な対応(発達障害すべて含む)
4	10	F	0	21	10	5	どのような配慮をしてもらえるかは、担任次第である。もっと学校の組織ぐるみの取り組みを期待したい。
5	10	男	A2	23	10	5	先生同士の連携がもう少し欲しいです。療育は療育担当の先生以外でもできると思うので、療育の先生以外の先生も積極的に取り組んでほしい。
6	11	M	0	21	10	5	先生方に実践的なことをもっと知って欲しいと思います。
7	11	F	B2	21	10	5	発達障がいに対する思い込みだけで子どもに接しないで欲しい。いろいろなタイプの子どもがいるので、もう少し理解して欲しい部分があります。
8	11	M	B2	22	10	5	人によって格差が大きすぎる。全体に教員の資質を向上させ、チームであたることを標準にして欲しい。
9	11	M	0	22	10	5	学校では定年前の教師が急に支援級担任になるケースもあり、先生にとっては支援級が居場所になっていたりするようだ。本当の支援の意味での人事を望みます。
10	12	M	B2	22	10	5	特別支援教育について、校長、教師が正確に理解してもらいたい。
11	12	M	B2	22	10	5	いろいろな障害があるように一人ひとりを見て欲しい。
12	12	M	B2	22	10	5	先生によって障害理解の差が大きいので、研修や資格などを必須にしてほしい。
13	12	M	B2	22	10	5	診断を受けた後すぐに、親と子それぞれに療育・相談先が必要。支援級の先生だけでなく、普通級の先生、校長にも障害特性を理解してもらいたい。

14	12	M		21	10	5	言葉の教室の先生に専門性を求めたい。何故トレーニングセミナーに参加しないのか。言葉の教室は小学生だけで中学は無いので、知的に問題のない自閉症児は中学以降どうしたらいいのか。
15	12	M	B2 精2	22	10	5	父の療育できる場が欲しいです。幼小中では自閉症に理解ある先生が少なすぎます。
16	12	M	0	20	10	5	幼・小の教育者にはもっと自閉症の知識が欲しい。支援級の担任でさえ一から勉強という場合が多く、引き継ぎや転任等の際のシステムもない。
17	13	M	A2	23	10	5	専門性は確かに必要だが、子どもと関わろう、学ぼうとする前向きな気持ちが大切。
18	13	M	A2	23	10	5	支援級、支援学級の先生に障害についてお勉強している方をお願いしたい
19	14	男	B2	22	10	5	言葉でのコミュニケーションが苦手なことを分かって欲しい。
20	14	男	B2	22	10	5	過敏なことを理解して欲しい。
21	14	M	0	20	10	5	現在公立中学校の支援学級に在籍していますが、教師の専門性があまりなく、もっと研修する機会を増やしてしっかり実のある支援を望みます
22	14	M	A1	23	10	5	自閉症児に基本的な対応をして、学校の先生すべてに理解・認知を
23	14	F	B2	22	10	5	明らかに普通級で役立たないレベルの先生、メンタルでの休職から復帰した先生などが、支援級の配属となることがある。そんな先生が適格でないかどうかは個別に考えるべきとは思いますが、少なくともきちんと障害児教育に向き合う希望を持つ先生を配置してほしい
24	15	M	A1	23	10	5	教師はじめ支援者の自閉症の専門性
25	15	M	A2	23	10	5	教員の専門性。きちんと障害児と向き合える教師。
26	15	M	B1	35	10	5	支援級には障害時支援の専門性のある方を配置してほしい。
27	15	M	0	22	10	5	子どもが入学した当時に比べると、大分自閉症への理解は進んでいるが、まだ十分でない部分もある。新しい情報も入れながら今後も理解が進むことを望む。
28	15	F	B2	35	10	5	教育実習でぜひ自閉症のクラスをもって体験してほしい。また、体験がないと資格が取れないようなしくみがあればと思う。
29	15	F	B1	35	10	5	専門性のある教師が特学の担任になってほしい。専門の研修を受けてほしい
30	16	M	A1	35	10	5	先生(支援学校・支援級・通常級)に専門性を持って欲しい
31	16	M	B2	33	10	5	軽度発達障害に対して公立の先生は勉強してほしい
32	17	M	B2	35	10	5	きちんと専門的な配慮のできる先生を配置してほしい。
33	17	M	B2	23	10	5	学校職員の方々には、障害についての正しい知識、理解を持って接していただきたい。
34	17	F	A2	35	10	5	自閉症の理解
35	18	M	0	34	10	5	各分野、専門分野をより明確にしてもらいたい
36	18	F	B1		10	5	先生方が障害理解や対応を学べる研修に参加しやすい環境を整えてほしい。
37	18	M	A2	51	10	5	自閉症に精通した職員、教師が増える事を望む
38	18	M	A1	51	10	5	養護学校の先生であるにも関わらず、あまりにも知識のない先生が多い。特に年配の女性の先生は、日々をこなしているだけの方が多い。
39	19	男	B2	51	10	5	療育、教育に携わる人は、自閉症の特性を理解する必要がある。特性を理解すれば、イライラせず、余裕も持てる。
40	19	男	B2	51	10	5	療育、教育に携わる人は、親に、障害理解を促し、療育、指導で何を目的に何をやっているのか説明して欲しい。
41	19	男	A2	51	10	5	先生は自閉症を理解し、評価がとれる必要がある。
42	19	M	B2	72	10	5	自閉症の教師の自閉症を名の発達障害時について理解の乏しさにとても困った。ただたんに行儀の悪い子、しつけのなっていないこと非難された自分の子に限らず近所のお子さん(LD)も時間厳守どうしてできないかと当時の教頭から親が校長室に呼びだされて注意されていた。管理職の障害の不理解不勉強
43	19	M	A1	51	10	5	療育者、教育者が自閉症の特性を理解し自閉症の人の立場に立って接していただきたい
44	21	男	A2	52	10	5	もっと本人を見て、本人のつらいことを理解して欲しい。
45	21	F	精3	42	10	5	障害が分かりづらくても、色々な理解力の生徒がいるということに配慮をする必要を教育者に感じてほしい
46	22	男	A1	51	10	5	もっと専門性の知識を持った教師による療育、教育
47	23	M	A1	51	10	5	一貫した指導計画と対応を求めます。担任の専門性のなさや気分に対応を変えられては困ります
48	24	M	A2	51	10	5	自閉症についての勉強をもっとしてほしい。
49	24	F	B2	70	10	5	今は少なくなったと思いますが、まだ自分の教育論を押しつける教師がいます。その特性を尊重する教育をして、生きやすくして欲しい。嫌な経験はいつまでも覚えています。

50	27	M	B2	61	10	5	本人をきちんと評価し、指導につなげられる教師と教育機関の充実を望む。
51	28	M	A1	51	10	5	自閉症の子どもを担当する先生にはぜひ自閉症に対する正しい理解を深めてほしい。
52	30	M	B1	51	10	5	専門性のある教師に子供を任せたい。
53	35	M	B1	61	10	5	専門性と個別支援
54	37	男	A2	51	10	5	教師の適正、教師への専門教育
55	38	M	A2	51	10	5	特別支援学級・学校の先生はしっかり教育を受けてほしい

項目10:療育・教育 20:望む事 ヒントNO別 ⑥、⑦、⑨、⑪、⑭

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ント NO	コメント ヒントNO ⑥:学校行事 ⑦:家庭・他機関との連携 ⑨:進路 ⑪:義務教育以降(高校大学) ⑭:その他
1	21	男	A2	52	10	6	特に健常児が良一緒にいる学校では、行事やご行儀にとっても厳しい。
1	8	M	0	21	10	7	中学入学後も引き続き支援をお願いしたい。
2	12	F	A2	23	10	7	療育者、教員と、保護者の双方が、互いの話に耳を傾け、情報を共有し、子どものことを第一に考えた教育ができるよう協力しあえるようになってほしい。
3	18	F	A1	51	10	7	療育センターや施設の職員と教育現場の教師の交流がもっと多くあった方がよい。
4	19	M	A2	51	10	7	市内(通える範囲に)に専門性のある療育機関・相談機関が必要だと思う
5	24	M	A2		10	7	早期発見と療育ができれば成長の違いが出てくると思うので相談機関、療育機関の充実
1	15	M	B2	34	10	9	大きくなると療育の場がなかなか見つからない「早期発見」ばかりしていないでそのあとに続く対策を
1	14	M	B3	21	10	11	義務教育以降(特に高校)の発達障がい児に対する理解を深めて欲しい。
2	26	M	精3	72	10	11	大学でのサポートの必要性。
1	15	M	B1	22	10	14	福祉体験の授業では、車椅子・視覚・聴覚障がいだけでなく、知的障がいにもふれてほしい。障がいが当たり前を受け入れられるようになればと願っている。
2	16	M	A1	35	10	14	通常級の授業で自閉症について取り上げて欲しい

項目10:療育・教育 30:求める合理的配慮 ヒントNO①:就学前、早期発見、療育、通園

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ン ト N O	コメント	ヒントNO①:就学前、早期発見、療育、通園
1	15	M	B1	22	10	1	保護者への第一関門である告知をきちんとできる機関・機会を整え、早期療育につないでほしい。	
2	18	M	0	34	10	1	相談窓口のたらい回しにならないようにしてほしい	
3	18	M	A2	51	10	1	子どもに合った適切な療育教育を受けられる体制づくり	
4	22	男	A1	51	10	1	告知と親に対する支援。	
5	22	M	A1	51	10	1	受容ができるかできないかという時期には本人のみならず親の知識や生活の状況に合わせた情報を提供されること	
6	24	男	A1	51	10	1	専門性の高い臨床心理士の配置をすることが急務です。	

項目10:療育・教育 30:求める合理的配慮 ヒントNO③:個別の教育、支援、指導計画(通級など)

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ン ト N O	コメント	ヒントNO③:個別の教育、支援、指導計画(通級など)
1	7	M	A2	22	10	3	障害の特性を理解し、在園することへの条件を付けるような事はせず、きちんと対応すべき	
2	8	M	0	20	10	3	本人がどの程度授業の内容を理解しているかきちんと理解する 他者とのトラブルなどどの程度対応できているのかフォローする	
3	10	男	A2	23	10	3	課題は次の日の担当に引き継ぎ、習慣にしていけると良い。	
4	11	F	B2	21	10	3	安心して学校生活をおくれる環境。	
5	11	M	B1	22	10	3	どんな時、本人が困っているか、見直した上で、手順書を作成して欲しいです。 先生には都度お願いしています。	
6	12	M	0	20	10	3	支援級の担任には前任者との引き継ぎの時間を作って欲しいと思う。書類だけでは伝わらないことが多い。民間ではあたりまえの引き継ぎというシステムがなく困る。せめて支援担当者は4/1~4のうちの2日間ずつ、前任者との引き継ぎ時間を決めて欲しい。先生も困っていらした。	
7	12	M		21	10	3	中学校にもことばの教室を	
8	12	F	A2	23	10	3	とにかく何でも周りにあわせようとするのではなく、個別に必要な支援をすることで、初めて集団の中で適応できるのだと発想を転換して欲しい。	
9	15	M	B1	22	10	3	視覚的なコミュニケーションツールの使用、構造化。支援者の共通理解。	
10	15	M	A2	23	10	3	子供により配慮することが全く違うので、個々の理解がとても必要だと思う。	
11	16	M	B2	33	10	3	どこに住んでいても共通した教育・療育を受けられるべき	
12	16	M	A1	35	10	3	障がい特性上、混乱や問題行動を引き起こすと予想されることは予め排除して欲しい	
13	16	M	A1	35	10	3	口語のみの指示伝達をやめ、文字や絵、実物を活用して欲しい。(口語はこれらに添えて用いる)	
14	17	F	A2	35	10	3	本人に合った環境整備・支援	
15	18	M	A2	51	10	3	その人に合わせたコミュニケーション方法を探る	
16	18	M	B1	51	10	3	集団行動の難しさをもっと理解してほしい。	
17	19	M	B2	51	10	3	本人は境界域の知能のため、教育機関のどこでも”帯に短し襷に長し”状態で中1で不登校になった時、養護学校を見学した際「当校の勉強では簡単すぎて物足りないでしょう」と断られた。一人一人に合った教育の場を提供してほしい。	
18	19	男	A2	51	10	3	親が子どもの障害を受容できるように確たる評価を行い示して、支援方法を提示する。	
19	19	男	A2	51	10	3	療育専門家は、興味や特異なことに着目し、苦手なことをしいないで信頼関係を作る。	
20	19	男	A2	51	10	3	成人になった姿を見越した教育計画を作る	
21	19	男	A2	51	10	3	特別支援教育は、自立に向け、視覚支援、本人が理解できる方法で分かりやすく伝える。	
22	19	M	A2	51	10	3	ポイントでの支援者は位置(駅とかバスの中とか)	
23	19	M	A1	51	10	3	環境整備・視覚支援・本人にたいしてのしっかりとした評価	
24	19	M	A2	51	10	3	障害特性に配慮した対応を養護学校・支援級に求めます。指示は言語指示がほとんどで、本人の意思を確認することすらしない。	
25	19	F	A1	51	10	3	本人のペースにあわせた、視覚的教材を使ったわかりやすい指導。	

26	20	M	A2	52	10	3	教育機関の自閉症理解があるべき
27	21	M	A1	51	10	3	養護学校のカリキュラムは知的に遅れのある子どもには複雑すぎる。分かりやすいカリキュラムで安心して学べる配慮が必要ではないか
28	22	男	A1	51	10	3	能力に応じた教育、療育
29	22	男	A1	51	10	3	視覚的支援
30	24	男	A1	51	10	3	自閉症の子どもの状態を正しく把握するための評価体制がきちんと整っている教育環境があること。
31	24	F	B2	70	10	3	教育・療育に携わっている人は良くも悪くも「かわいそうな子」と思って接している人が多いです。かわいそうと思わず、一人の人間として接して欲しい。自分と違う感覚を持っているだけです。
32	26	M	精3	72	10	3	障害に応じたカリキュラム。
33	27	M	B2	61	10	3	本人の正しい評価→本人と周りが望む支援→将来の暮らしに結び付く支援 これらを早期発見から「本人のカルテ」を作成し、どんな人もカルテから支援ができるようなシステムがあればと思う。
34	35	M	B1	61	10	3	専門性と個別支援、クールダウンの別室があること
35	36	M	B1	51	10	3	一人ひとりにプログラムを作成して指導していただきたいと思います
36	38	男	B1	51	10	3	本人の発達段階に合わせた指導教育。将来を見据え必要となるスキルが身に着くよう発達支援を
37	38	M	A2	51	10	3	高等部のカリキュラム等が発達障害のある人にわかりやすいものにしてほしい

項目10:療育・教育 30:求める合理的配慮 ヒントNO④、⑤、⑥、

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒ ント NO	コメント ヒントNO ④:教育相談、⑤:教師の専門性、⑥:学校行事
1	10	男	A2	23	10	4	改善するところ、課題のアイデア等、意見交換の場、話し合いの場があると良い。
1	9	F	B2	22	10	5	教師の理解
2	11	M	0	21	10	5	補助指導員の先生にもっと専門性があれば良いと思います。相談室では、限界があるので、各校に通級指導教室もあれば有難いと思います。
3	12	男	0	22	10	5	“声かけ”で指導されることが多いが、“声かけ”ではなく、自分で行動できると良いので時間割なども前日にはきちんと伝えてもらいたい。
4	12	男	0	22	10	5	大事なことは、声ではなく、メモで示して欲しい。
5	13	M	A2	23	10	5	相模原市の支援級の担任は、心身、体調に問題がある先生の溜まり場になっているように感じる。教育委員会は配慮してもらいたい。
6	14	男	B2	22	10	5	本人からの言葉のみで判断せず、常に顔色を見て、必要とあれば言葉かけをする。
7	14	男	B2	22	10	5	過敏でできないことを、「がんばれ」と言ってやらせることは、やめてほしい。
8	18	M	A1	51	10	5	熱意のない先生は、早々に退いて、若い思いのある先生にバトンタッチしてください。
9	19	F	A1	51	10	5	自閉症でなくても約束を守ってくれないと不信感を持つので、約束は守ってほしい。
10	20	M	B1	51	10	5	教員に対しての研修会、勉強会への参加の徹底
11	21	M	A1	51	10	5	療育や教育が成功するか否かは、よい教師にめぐり会えるかどうかにつきるといってもよいと思います
12	21	男	A2	52	10	5	感覚過敏を良く理解し、本人につらくない場面を作る。
13	24	M	A2	51	10	5	教師が親の話に耳を傾けてくれないので、専門機関のDr等との3者面談等をしてほしい。
14	28	M	A1	51	10	5	自閉症にたいする専門性を持った先生の配置。専門性のある施設との連携も
15	35	M	A2	62	10	5	社会性を養うため、個別教育確保に人材を増やして欲しい。
16	37	男	A2	51	10	5	障害児といっても個々に違い、個別指導とそれをこなせる教師が必要
1	12	男	0	22	10	6	行事の時など、視覚化されたプログラムがあると、本人自身が自分で理解しながら参加できると思う。
2	12	M	B2	22	10	6	学級として成り立たせたい気持ちもわかるが本人の気持ちも理解してほしい。
3	15	M	A1	23	10	6	距離を短くしたりリレー。立ち位置がわかるマット。校長先生が壇上から降りて座席で渡してくれた卒業証書。

項目10:療育・教育 30:求める合理的配慮 ヒントNO⑦、⑨、⑪、⑭

N O	年 齢	男 女	手 帳	分 類	項 目	ヒト NO	コメント ヒントNO ⑦:家庭・他機関との連携、⑨:進路、 ⑪:義務教育以降(高校大学)、⑭:その他
1	9	F	B2	22	10	7	介助員の増員
2	12	M	B2 精 3	22	10	7	義務教育の場にワンステップで医療や福祉につながることでできるシステムがあればと思います。支援を必要としている子どもに一番近い存在は学校の先生だとおもうので。
3	19	F	A1	51	10	7	相談できる機関を増やす。
4	30	M	B1	51	10	7	親は学校に頼りすぎず、自らが学び経験したことを知らせるべき。
5	35	M	A1	51	10	7	関係者間の連携の具現化
1	14	M	0	21	10	9	高校卒業まで、一般の公立高校の中で、ある程度必要な支援を受けられるようになるといいです。
2	18	F	B1		10	9	高機能の子どもたちが、高校・大学で選択肢が広がるように、理解・支援をしてくださる学校が増えることを望む。
1	15	M	B2	34	10	11	公立学校にも支援希望対象者枠を
1	9	M	精2	21	10	14	一般の方の理解を強くしていただく。
2	12	M	B2	22	10	14	まずは障害特性を周りに理解してもらおう。自閉症の人にわかりやすい配慮は、万人にわかりやすいということをおわかってもらう。